

ラバル地区の特異性—都市社会運動から見る²⁵

ラバルは、バルセロナ市内で最も疲弊した地区であり、集中的かつ強力な地区改造にさらされた地区である。

ラバル地区が疲弊に追い込まれていったプロセスには、次の4つの基本的な要因がある。

- ① 個々の住宅の衛生条件が極端に悪化している
- ② 街路が狭く、込み入っていて、連続性がない
- ③ 市街地が高密度である
- ④ 4本の通り（ランブラス通り、パラレル通り、2本の旧市街を囲む通り）によりはつきりと限られ、孤立しやすい

疲弊をさらに悪化させる付加的な要因としては；

- ① 住民の高齢化
- ② 地区レベルでの福祉・文化施設が不足している
- ③ オープンスペースが少ないため、住民同士の関係がオープンな通りで培われにくく、閉鎖的な場で秘密裏に進みやすい

疲弊の連鎖に陥り、住民が入れ替わっていくプロセスで、よりマージナルな人が寄り集まっていく傾向をたどり、地区全体が複合的な社会問題を抱えた用途に供する方向に向かった。地元町会のペップ・ガルシア氏によると、「ラバル地区では、長年、商人、職人、売春の関係者が、よき隣人同士として、大した問題もなく暮らしてきた。ところが、1970年代初めから状況が変わった。急速に地区の生活が疲弊し始め、悪質な麻薬やジブシー系、アフリカ系の移民が出現して危険を増した」と言っている。

ラバル地区は、市内で特異な歴史的経緯を辿り、バルセロナで最悪の地区のレッテルを貼られるようになっていった。「ラバル」とは「城外」を意味する。中世の第1市壁の外の一帯で、都市が中に許容できない施設が次々と立地していった。屠殺場、家畜廃棄場、病院（サンタクレウ）、養老院・孤児院（カリタットの家）などである。都市にとっての迷惑施設が集中する地区の特性は、ランブラス通りの第1市壁が撤去され、ラバル地区が市壁内に取り込まれても変わらなかった。19世紀にすべての市壁が取り壊された後も変わらなかった。ラバル地区は常にありとあらゆるレベルのサービスを都市バルセロナ全体に対して供給し続けてきた。売春・ショーなど低俗な大衆文化からオペラ（リセウ劇場）・美術学校（マッサーナ）、カタルーニャ図書館など一級の文化まで。ラバル地区の住民は、マージナルな地区であるとはっきり認識しており、常に都市のために奉仕し、何の見返りも受けてこなかったと感じている²⁶。

都市バルセロナの伝統的「悪所」としてイメージの定着しているラバル地区にとって、その疲弊にさらに追い討ちをかけたのが、百年越しの幻の都市計画道路「ガルシア・モラト通り」だった [図 8-14]。

1859年セルダによる拡張計画は、碁盤の面の拡張市街地（エイシャンプレ）と港とをつ

²⁵ M.ドミンゴとM.R.ボネットは、近隣住民組織の活動を継続的に追い、バルセロナにおける都市社会運動を展開を分析している。彼らは、ラバル地区において、近隣住民組織の起こした抗議運動を詳細に検討している。住民運動の高まりと衰退という単純な経緯ではなく、諸要因が複雑に絡み合ってきたことを浮き彫りにしている。(Domingo and Bonet, 1998)

²⁶ トット・ラバル財団ディレクターM.ルンビエレス氏のコメントによる。(2003年9月インタビュー実施)

なぐために、旧市壁内の市街地を縦断する通り2本を含んでいた。その1本が現ゴシック地区とカスクアンティック地区を隔てるライエタナ通りであり、実現した。他方の1本がラバル地区を二つに分断するほぼ直線の計画道路だった。これも、ラバル地区から見れば、バルセロナ市の発展のために犠牲を強いられることを意味していた。1939年市民戦争が収まった後、戦災跡地を活用して、計画道路のうち海側の一部が実現した。当時のガルシア・モラト通り（現ドラサネス通り）である。

今日につながるラバル地区の住民運動は、『ガルシア・モラト通り開通による被害者の会』が原点である。ガルシア・モラト通りは、1959年の計画図にも描き込まれていた。ライエタナ通り同様、新ガルシア・モラト通り沿いには、金融など新たに台頭したサービス業が立地するイメージで、既存の地区の実態とは無関係だった。地区を縦断する通りが開通すれば、地区住民の1/3が立退きなどの影響を受ける。地区の問題は通りの裏に押し込まれるだけで、新通りの開通は地区の改善には役立つ見込みはなかった。

新通りに反対する住民たちは、『家長会』に結集し、その活動は1966年『近隣住民委員会』へと発展した。1969年、地区近隣住民組織（町会）が合法化され、第V地区（現ラバル地区）町会の活動となっていった。公正な立退きと地区内での代替住宅を求めた。（初回の立退き者は、地区外のカニェリエス団地に代替住宅を与えられていた。）

市当局の計画の不整合が露呈したのを受けて、第V地区町会は商店会と連帯して、立退き反対を主張し、長年の道路計画により浮き足立ち疲弊した地区の健全化を要求していった。地区のための施設や良質の住宅の供給など、要求を具体化させていった。1975年、町会主催のアイデアコンペを経て、町会は、縦断道路計画の代替案を提示するに至った。他方、市当局は、反対派を分裂に追い込むべく、個別交渉による立退きを強行に推進した。

この時点で、バルセロナ市当局の都市政策が反転する。1975年フランコ独裁体制が終焉し、1979年に民主化された市当局に生まれ変わった。計画どおりに道路を通すことに代わって、地区住民の生活を再生することを優先する方針に変わった。ラバル地区を縦に走る軸は、先の住民発案の代替案を取り入れて、地区を分断する性格のものから、地区の生活を繕う市民サービスの軸という性格を与えられた。これが、1982年ラバル地区 PERI（特別計画）として都市計画決定される。ラバル地区を縦軸上に連なる地区のための公共空間を創出していく計画となった。町会主体による縦断道路反対運動が、政治的な転換期と符合し、市当局に計画を変更させる大きな力となった。

以後、地区近隣住民組織のラバル地区町会は、その要求をより具体的に提示するようになっていった。この時期の住民側の要求は、①地区内の緑地、②住宅の質、③大型の旧宗教施設などの用途転換、の3つのトピックにおおよそ集約される（Domingo and Bonet, 1998）。

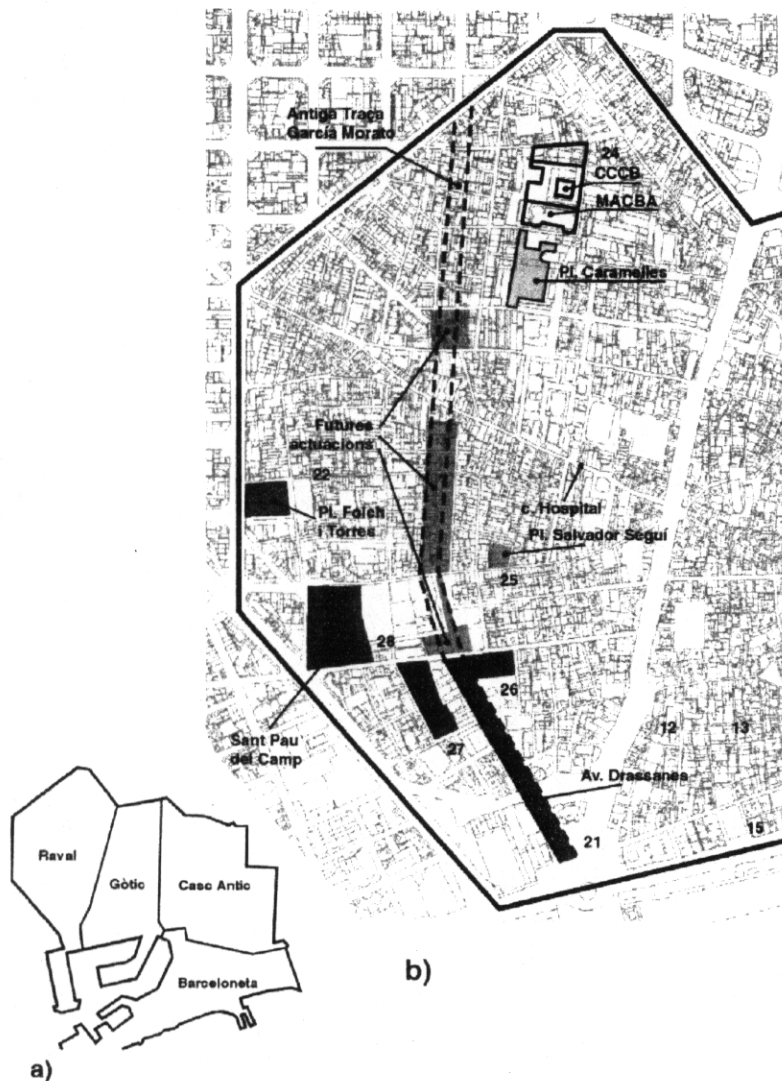


図 8-14 ラバル地区を縦断する幻の計画道路。通過交通のための道路ではなく、公共空間の連鎖で地区の生活の質を向上する方向で、特別計画 PERI が 1982 年に策定され、ラバル地区再生が始まった。その後、近隣住民組織と市当局の紛争の種となったオープンスペースや旧宗教施設の場所が地図に示されている。出典：Domingo and Bonet, 1998

① 地区内の緑地

フォルク・イ・トレス広場、サルバドル・セギ広場、サンパウ・デル・キャンプ教会周辺の 3 箇所について、町会と市当局の不協和があった。

■ フォルク・イ・トレス広場

ラバル地区には、緑化された公共アクセス可能なスペースは皆無だった。1970 年当初、唯一の地区内広場だったのが、フォルク・イ・トレス広場である。市当局の協力が得られないなか、近隣住民自らの手で、地区の商店会の資金援助を得て緑化した。後になって、広

場再整備の話が持ち上がったのに対して、町会は独自案を提出した。最終的に、1985年、市当局のプロジェクトにしたがって整備された。町会は、地元の求める用途に合わず、納得しなかった。バルセロナ市当局の進めていた公共空間づくりの一環で、都市型の舗装された広場となった。当時、メンテナンスコストの面から、緑化された「柔らかい」広場より舗装された「硬い」広場が主流だった。殊に、広場に噴水の出る池がつけられたことに反発した。池とは名ばかりで、「ゴミや人間の排泄物の溜まりになる」ことを町会は懸念した。町会と市当局のすれ違いは放置された。近隣町会はそれ以上なす術もなく、彼らの不満をよそに、広場はスケートボードによく活用され、広場に対する破壊的な行為は少なかった。

■ サルバドル・セギ広場

映画館の跡地で、一時駐車場になっていた。近隣町会は、保育所建設を請願し、プロジェクトまで作成して提案したが、敷地が基本的条件に合わず、保育所案は消えた。町会は、植栽された広場とすることをしぶしぶ受け入れ、1978年に仮整備、1981年に市の事業として整備された。1987年時点で、その使われ方は決して好ましいものではなかった。「硬い」広場ほど頑強ではなく、あつという間に破壊行為の餌食となった。市当局は破壊された広場を手入れしようとせず、1993年、町会は広場の管理を怠ったとして、市当局を告発している。

■ サンパウ・デル・キャンプ教会周辺

回廊付ロマネスク様式の教会建築、サンパウ・デル・キャンプの修復に伴い、周辺整備が行われた。教会に隣接するタピエス通り側の建物が取り壊されてオープンスペース確保が可能になった。町会は、前2例と異なり、独自の提案は行わず、市当局のプロジェクトに注文を付けるかたちで関わった。町会は、教会の前に池をつくることを阻止し、破壊行為を招きやすい公共空間とならないように、管理委員会に参加した。町会と市当局が協調して進めてきたプロジェクトだったが、皮肉な結果に終わった。採用された整備案は、外の大通りから見通しが利かず、不用意に死角が多く、犯罪が多発してしまった。

② 住宅の質

先のガルシア・モラト通り新設のために立ち退いた住民の抱えた問題に学び、特別計画PERIを実施していくにあたり、これから立ち退くことになる住民たちは、同じ地区内で人間的な生活を続ける権利を強く主張した。

■ オム通りの住宅

こうした住民側の要求を受けて、最初を実現したのが、オム通りの集合住宅だった。立退いた人たちの代替住宅という意味では、町会の要求が通ったが、代替住宅の中身はよいものとはいえなかった。設計者は、隙さえあれば破壊行為の餌食となる地区の性質をとらえきれていなかった。複数の棟が渡り廊下でつながれている様は、住民に言わせれば「監獄の廊下」さながらだった。犯罪の舞台となり、不審者の侵入を防ぐために、金網を張り巡らすしかなかった。結果的に、治安の悪いイメージが助長された。多くの住民が、より質の高い住宅を手にする一方近隣関係が著しく悪化する結末となった。竣工してわずか5年の1993年、破壊されて改築せざるをえない状態になった。オム通りの住宅の失敗に学び、次に建設されたアンプレ通りの住宅では、ゲットー形成を回避し、伝統的な地区のかたちに近づけられた。

■ アンジェルス通りの住宅

アンジェルス通りの住宅では、内に閉じたカラメリエス広場 [図 8-15] ができたため、オム通りの過ちを繰り返す結果となった。町会は、破壊行為が繰り返され荒れ果て何ヶ月も放置されていることに対して、市当局の怠慢を告発している。



図 8-15 カラメリエス広場

③ 大型の宗教施設などの用途転換

ラバル地区は高齢化問題を抱えている。それが近隣住民にとって最大の関心事である。住民側の高齢者施設要求がほぼ全面的に受け入れられて実現したのが、ノウ・デ・ラ・ランブラ通りとドラサネス通りの角に新設された老人介護施設とデイケアセンターである。城外地区の特性から、ラバル地区には、多くの宗教施設や慈善施設があった。これらの建物は数百年を経て当初の用途を失い、廃墟となっていた。住民は町会組織で声をひとつにまとめ、これら廃墟化した大型施設を高齢者福祉施設へ用途転換することを請願してきた。1975年、「カリタットの家」を老人施設に転換する要求がその第1号だった。しかし、住民の請願は、一大文化施設に転用しようとする市当局の思惑と正面からぶつかった。文化施設を『リセウからセミナリまで』数珠繋ぎにするという市当局の野心的なラバル再生戦略において、「カリタットの家」は要だった。一級の文化が地区に入ってきて、それは地区外の人のためのものであり、近隣住民がその恩恵に与れるほど、彼らの文化水準は高くない。地区住民たちは、再び、市全体の利益のために犠牲になりなんら見返りを受けられないのではないかという疑念を強くする。町会は、「せめてその一部を近隣住民のために当ててほしい」と再度懇願し、市当局は市民センターの設置を約束するが実現しなかった。わずかに、中庭の公共アクセスが確保されたにとどまっている。

その後も市当局は、旧アンジェルス修道院、マニンの中庭など、旧大型施設やその跡地を再開発して、現代文化センターCCCBや現代美術館MACBAなど文化施設整備に邁進していった。近隣住民は、現代美術館前に大きなオープンスペースができたことを歓迎している。美術館前の広場には、多様な人種や社会的なクラスの人たちでにぎわっており、社会的排除をおこさなかったことの象徴として語られることが多い。しかし、一步、文化施

設の内側のオープンスペースに入ると、近隣住民らしき人の姿はぐんと減る。近隣住民は、一級の文化施設が提供する文化にはほとんど無関係な暮らしをしている。町会の見解では、「市当局主導のラバル地区再生を成功と認めるには早計に過ぎる。低所得層にもアクセス可能なものにもっと配慮すべき」という。

ラバル地区では、縦断道路を阻止し、地区の環境を向上するための軸へと転換するところまでは、近隣住民組織には大きな達成感があった。しかし、ひとたび、特別計画 PERI が動き出した後、個別具体的な請願は決して成功しなかった。請願が受け入れられても期待を裏切られる結果を招き、提案型の主体的な要求が後退し、ほとんどの要求は市当局のラバル地区再生戦略の前に歯が立たなかった。市当局が、自信を持って地区再生を進めるにつれて、近隣住民との信頼関係は失われていった。

町会は現在の市当局の方針を、「住民の利益を高めることより投機を煽るもの」と批判している。しかし、ラバル地区は、ちょっとした隙も見逃さず、破壊行為や犯罪が起きやすい特異性を持っている。共存不可能な多様な住民が居住している。近隣住民の現状に対する不満から必然的に導き出される要求に誠実に応えていくだけでは、必ずしも再生につながらない。旧来の住民を排除せずジェントリフィケーションを誘導し地区のイメージ向上に成功すれば、地区は再生し問題が解決するわけでもない。旧来の住民は依然として旧来の問題を抱えたまま地区にとどまっている。民主化以降のラバル地区における市当局と町会の不協和は、こうした過酷な条件下の地区を真に再生する道を見出すことの難しさを示している。

トット・ラバル財団—多様な主体のプラットフォーム

■ 設立の経緯、構成メンバー、目的

トット・ラバル財団は、2002年3月18日に設立された。「ラバル地区について、ラバル地区の人たちで、ラバル地区の内から考え、問題を解決していく」ための組織である〔図8-16〕。1.09 km²を占めるラバル地区には現在、37,911人の人が住んでいる。最も人口が多かった20世紀はじめには、12万人が住んでいたという。ラバル地区で経済活動をしている事業者は4350にのぼり、非営利の活動をしている組織団体は106を数える²⁷。

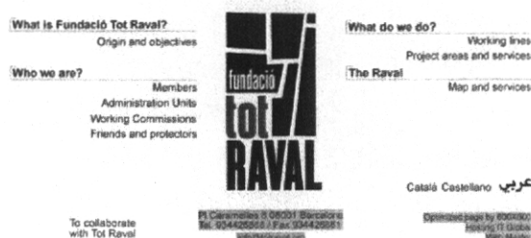


図 8-16 トット・ラバル財団のホームページ。カタルーニャ語、スペイン語、英語に加えてアラビア語で発信している。<http://www.totraval.org/>

²⁷ Tot Raval, Fundació (2003) Diagnòstic i Accions de Foment Social i Econòmic pel Raval ラバル社会経済実態調査による。

2001年春、「営利・非営利組織・公的組織の相互協力が強まれば、市民の地区への関心が高まる。地区のネガティブなイメージを葬り去るためには市民の参加が欠かせない」という信念をともにする人たちが、話し合いを始め、約1年後に財団設立となった。トット・ラバル財団の母体となる組織はなかった。立役者となったのは、ロザ・ジルとエンリック・パンタレオニの二人の個人だった。

ロザ・ジルは、ラバル地区で『カサ・レオポルド』というレストランを経営している。ラバル地区の中でも最悪の場所（現在のランブラ・ラバル通りの脇）で、再生の始まる前の最悪の時期にも耐え、ラバルに対する愛着を決して捨てずに、老舗の名門レストランの看板を守ってきた。彼女は、トット・ラバル財団の設立当初から理事長を務めている。エンリック・パンタレオニも、生粋のラバルっ子で、ランブラス通りの『モデロ』を初め、バルセロナで数々の洋品店を経営している（*EL Periódico* supl 8/10/2003）。

多様な組織を受け入れる寛容なプラットフォームづくりへと、彼らをかりたてたのは、ここ20年あまりの行政主導の地区再生で状況が変化したことだった。ラバル地区で集中的に行われた都市再生は、ラバル地区内に地殻変動をもたらした²⁸。ラバル北半分では、質の高い文化施設ができて、著しく改善し、内発的な再生の歯車が回りだした。他方、歴史的に悪所だったラバル地区が抱えてきた問題は、南半分に凝縮され、移民の新たな波にさらされている。このままではいけないという危機感がラバル地区を思う人たちの間に広まった。彼らは、2001年春から、財団設立に向けて趣意書を作成し、6ヶ月間かけてラバル地区に関係する諸団体の意見を聞いた。その結果、多くの団体が前向きな期待を示したので、「地区をポジティブなイメージを普及させ、地区の生活の質を改善すること」を目標として、翌春、財団を発足させ、本格的な活動に入った。

トット・ラバル財団は、組織から成る組織で、非営利・営利・公的なメンバー組織が行おうとしていることに筋道を付け、手助けするために活動する。地区の生活の質を高め、異なる文化間の交流を活発にし、商業活動・文化教育活動や社会活動が共存できるようにするにはどうすればよいか、十分な情報を提供し、異なる主体間の関係を深めることを使命としている。そして、ラバル地区が、持続可能で多様性に富み、ダイナミックで将来展望のある地区のモデルとなることを目指している。トット・ラバル財団は、メンバー組織の協働により運営され、行動方針を決定している。

現在トット・ラバル財団のメンバーは、34団体11個人（個人事業主を含む）である。以下のようにメンバー団体は多岐にわたっている²⁹。

- ・ 商店会系では、ランブラス通り商店会、ボケリア市場出店主組合、南部に新たに進出した商店主の会など
- ・ 子どもの家や女性のための家などの福祉施設
- ・ 地区の改善を望む有志の会
- ・ 若者や女性の雇用を促進する会
- ・ 青少年団体
- ・ 各種宗教活動団体・文化系の財団（舞台芸術、美術）や教育機関（美術学校など）

²⁸ トット・ラバル財団ディレクターM.ルンビエレス氏へのインタビュー；Lumbierres, M. ルンビエレス, M. (09/2003) director gerent, fundació tot Raval, 兼務するロマア財団のオフィスにて: Barcelona.

²⁹ トット・ラバル財団 Fundació Tot Raval <http://www.totraval.org/>

- ・ 北に新設された現代美術館や現代文化センター
- ・ 労働者の組合
- ・ 同人会
- ・ イスラム文化の組織
- ・ 市設立の再開発公社 PROCIVESA

さらに、トット・ラバル財団の協賛外郭組織として、リエウオペラ劇場とその同好会、EI periodico 紙、地元の画廊などがある。また、市・州・県から資金面での支援を受け、ラカイシャ、マドリッド信用金庫の2金融機関の社会事業費からの支援がある。また、国際機関やEUレベルからの資金援助も活用している³⁰。

トット・ラバル財団の最高決定機関は参加組織の総会で、総会は、年間計画・年間予算の決定、選挙方法の決定、ディレクター任命の権限を持つ。それ以外の決定は理事会で行われ、理事会は12人の理事よりなる。トット・ラバル財団事務局は、一人のディレクター（事務局長）と個別テーマ毎計4人のスタッフにより構成されている [図 8-17]。設立当初から現在までディレクターを務めているのがM. ルンビエレス氏³¹で、理事（全12名）を兼務している。ルンビエレス氏は、現在、ロメア財団とトット・ラバル財団のディレクターを兼任している。

ロメア財団は、ラバル地区にロメア劇場を持つ舞台美術振興のための財団であり、トット・ラバル財団のメンバーでもある。ルンビエレスは、民主化後のバルセロナ市当局の行政マンとして20年近くマラガル市政を支えてきた。その間、清掃局、文化局、社会福祉局の局長を歴任してきた。1997年マラガルが退陣したときに、市当局を辞して、ロメア財団のディレクターとなった。そして、2002年、トット・ラバル財団創立に尽力した。彼の行政マンとしての経験と人脈が生かされ、トット・ラバル財団は、多様な市民組織と民間企業、行政との橋渡しに、力を発揮している³²。

具体的な目標として次の項目を挙げている。

- ・ 組織のプラットフォームの役割を担うこと
- ・ 多様な個人と企業の間統合的な仕事を進めるための先進的な手法を開発すること
- ・ 地区の生活について考察を深め議論を活性化すること
- ・ 地区全体の公益を意識できるように手助けすること
- ・ 地区内住民の地区における「作法」と外から地区に対する「作法」を改善すること
- ・ 組織発案で公益と個人の利益を調整する出会いの場となること

³⁰ 市民組織が公的資金を集めるコツとして、「遠くから近くへ」がポイントだという。トット・ラバル財団は、小額でも自分たちから最も遠い国際機関などから資金援助を取り付け、それを勲章に、身近な市や州からより大きな額の資金援助を取り付けていった。現在、トット・ラバル財団は、国レベルの税である個人所得税IRPFの社会貢献枠0.5%候補に名乗り出ている。IRPF0.5%枠とは、各個人が税金を申告する際に、社会貢献のためにどの団体へ投じるか選択できるしくみになっている。これにノミネートされている団体とは、キリスト教系の社会活動団体『カリタス』や『国境なき医師団』など全国的によく知られた組織ばかりである。トット・ラバルがノミネートされれば快挙である。エリアターゲットの活動をしている団体としては初になるが、統合的に多分野に取り組んでいることが高く評価されて可能性がでてきたという（前出インタビューより）。

³¹ Miquel Lumbierres (事務局長/ Director-manager/ Director-gerente)

³² ルンビエレス氏は「行政にいたことがなければできないことがある。行政に続けてはできないことがある」と考え行政職を辞してNPOを拠点に活動することにしたという（前出インタビューより）。

- ・ 経済・文化・社会のあらゆる面で、公的なプログラムと民間のプログラムの橋渡しをすること
- ・ 当財団と他組織、市当局などと協力のための合意形成をしていくこと

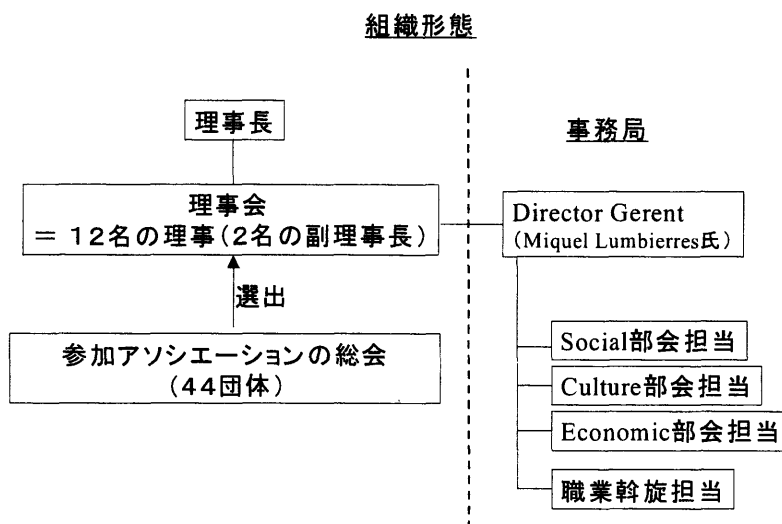


図 8-17 トット・ラバル財団の組織

■ 活動内容

トット・ラバル財団の活動には、①社会・教育、②文化・芸術、③経済・商業、の3つの柱がある。3つの活動分野は、それぞれ独立したものではなく、相互に関連しており、2つ以上の分野にまたがる統合的アプローチのプロジェクトもある。それぞれの柱別に、小委員会を設け、月1回定例の会合を行っている。

トット・ラバルのメンバー組織は、3つの小委員会のうち興味あるものに参加している。現在の主な活動内容は³³；

① 多様な組織が相互に出会う「お見合い」の場をつくること

わずか1km²の地区に、100を越える団体が存在しているのに、それぞれ独自路線で、お隣の活動を全く知らずに活動しているのが実態だった。トット・ラバル財団のメンバーが協賛に加わっている40近くの組織が、お互い何をしているのかを知ることのできる場をつくるのが、トット・ラバルの最初の活動だった。トット・ラバルが各組織についての情報を収集したことで、誰もが、ラバル地区を拠点に行われている非営利活動の全貌を初めて認識できるようになった。

現在、3つの小委員会の定例会は、組織同士の「お見合い」の場として有効に働いている。

例えば、メンバー組織のひとつ『Joves TEB』³⁴は、地区の若者が集う場を提供している。

³³ トット・ラバル財団ディレクターM.ルンビエレス氏のコメントによる。(2003年9月インタビュー実施)

ラバル地区の建物を一棟借りて、パソコン指導や有線放送で発信するなどの活動を行っている。パソコン指導の一環として、トット・ラバル財団のホームページを作成した。事務局代表のエレナ・パラウは、3小委員会のうち、社会・教育と経済・商業の2つに参加しているという。トット・ラバルのおかげで、ずっとラバル地区を拠点に活動していながら、接点のなかった人たちと知り合いになれたと喜んでいる。例えば、ボケリア市場出店主組合と知り合って、TEBの活動に参加している失業中の若者が市場で職を得たケースもあったという。

② ラバル地区の実態を知ること

トット・ラバル財団は、活動のフィールドとなるラバル地区を対象に、まず実態を客観的に把握すべく、実態を調査中である³⁵。その中間結果が2003年3月にまとまった。トット・ラバル財団は、民間のマーケティング・コンサルタント会社に実態調査を外注し、地区住民の職業訓練を兼ねて、地区の失業者8人が、調査を請け負った会社の下で本調査のためのアンケート調査などに携わっている。調査項目は、①商業の実態、②社会活動組織について、③ラバル地区の住宅事情について、④周辺の都市環境について、である。中間結果時点では、①商業の実態³⁶までがまとまっている。

③ 多彩な商業の共生の道を探る

北部では、昔からの商店主とラバル再生で地区イメージがアップしたことにより新たに進出してきた商店主の共生が問題になっている。新参商店主は、地区の文化的質の高さが魅力で、進出してきたため、おしゃれな店舗を構える。観光客など外からのお客に期待している。他方、昔からの商店主は、旧来の住民たちを顧客に持ち、旧態依然とした商売を続けている。トット・ラバル財団は、商店街のグレードアップのために改装を助言しているが、彼らは改装すると商品の値段が上がり旧来の顧客が来てくれなくなることを恐れ、なかなか、改装に踏み切ろうとしない。資金のかからないちょっとした知恵を出すことによって、売上げが上がるようにサポートしている。また、あまりにも急激に不動産価値が上

³⁴ Joves TEB と Ravalnet の両組織は同じ場所を拠点に活動し、スタッフも共有している。地区の人々は、ここを訪れると、無料でパソコンを利用できる。代表のエレナ・パラウは、「パソコンを使えるようになることで、それを特技に就職するケースは皆無。移民や長期失業者などのこの地区の住人たちは、インターネットアクセスはおろか電話を持っていない人が多い。ラバル地区に多言語で書かれた民間の電話インターネット店の看板があるのはそのため。ここに来れば、彼らはインターネット電話を活用して、低料金で祖国の家族に電話することができる。また、一度も就職活動を行ったことのない人は、履歴書の書き方すら知らない。パソコンで履歴書が作れるようになり、とても喜ばれている。パソコンは技能として役に立つというよりは、就職情報をネットで得たり、メールのやりとりで情報交換したり、履歴書をつくったり、というかたちで手段として地区住民を雇用市場にアクセスしやすくしている。(E.パラウへのインタビュー、2003年9月実施)

³⁵ Tot Raval, Fundació (2003) Diagnòstic i Accions de Foment Social i Econòmic pel Raval ラバル社会経済実態調査。

³⁶ バルセロナ市民の消費実態は、一人当たり年間、食料品に1748ユーロ、服飾品に687ユーロ、家庭用品に386ユーロ、その他に825ユーロである。ラバル地区は全市平均の65.4%にとどまっている。ラバル地区の消費動向の特質として、地区内の近隣でこまめに買い物をしている実態が明らかになった。ラバル住民の81.4%が生鮮食料品を地区内の市場で購入している。これは、全市平均に比べて25%も高い数字である。ラバル住民の62.5%が、毎日あるいは2、3日に一度買い物をしている。全市平均に比べて15%高い数値である。全市平均では日常的にスーパーマーケットで買い物をしている人が80.9%であるのに対して、ラバル住民では13%低い。服飾品を地区内で購入する人の割合も70.2%にのぼり、全市平均より20%高い。(Tot Raval, 2003)

がっているために、旧来の店主は商売のやる気を失い、シャッターを閉めて、売却する時期をうかがうようになった。シャッター通りがあちこちに出現しては、まちの魅力である賑わいが薄れ、治安も悪化するため、トット・ラバルはこれを問題ととらえている。しかし、所有者の自由であるため、シャッター通りとなるのを防ぐ特効薬はない。トット・ラバルは、市当局に働きかけ、法的に許された手段の範囲内で、衛生状態のチェックなど、立入り検査を頻繁に実施するように要請してきた。

南部では、昔ながらの店主と移民店主との間のいざこざが増えている。移民たちはモロッコ系、インドーパキスタン系の別に特定の通りに集住し、店を構えるケースが多い。近年問題となっているのは急増するインドーパキスタン系移民である。彼らは、若い時期に単身で移住してくる。まだ家族を持たないために、24時間営業の商店を営んでいる。サンパウ通りでは、昔ながらの商店街が斜陽なところに、パキスタン系の店が急増した。トット・ラバルはこの問題を取り上げて、通り全体で、多様な店主による対話の場をつくろうと奔走した。さいわい、積極的な店主が双方から現れ、互いの理解不足が生んだ問題は緩和されている。

④ リセウ劇場と地区住民の関係を つくる

バルセロナのリセウ劇場は、欧州3大オペラの殿堂として知られた名門オペラ劇場である。ラバル地区に立地しているが、その事実を認識している人はバルセロナ市民の中でも少ない。リセウ劇場は世襲制会員の共同所有形態を未だにとっている。他方、ラバル地区住民にとって、オペラは高嶺の花で、一生涯ラバル地区に住みながら一度もオペラを鑑賞せずに終わる人がほとんどである。現在リセウ劇場はトット・ラバルの協賛組織となっている。ディレクターのルンビエレスは、「一興行につき200席をラバル地区市民のために提供してほしい」と持ちかけた。彼は、文化局長時代にリセウとのパイプを持ち、リセウの約款に「社会的貢献」の項目があったのを記憶していて、これを盾に交渉を持ちかけたという。お慈悲で分けてもらうのではなく、世襲会員の持ち席で、誰も来れないときに席を融通してもらうかたちを提案し、受け入れられた。

⑤ 民間企業と市民組織の活動をつなぐ

ラバル地区には女性の雇用促進のために活動している団体がある。トット・ラバルは、ラバル地区に大店舗を構える急成長のアパレルメーカー『サラ』とこの女性雇用促進の活動をつなげるアドバイスをした。サラはグローバルな流通網に長け、現在製造の多くを海外に依存している。しかし、服の直しは地元で行っている。トット・ラバルはここに目を付け、女性の職業訓練の一環として服の直しを引き受けることを提案した。サラにとっては、服の直しのコストが下がる上に、本業の一環で社会的責任を果たすことができ、一石二鳥の策である。これが成功すれば、同じしくみで他のアパレルメーカーにも働きかけていく考えだそうである。

⑥ 「舞台芸術」キーにラバル地区南半分の再生を

トット・ラバルを組織した背景には、ラバル地区内で南北間格差が生じてしまっていることがあった。北半分は文化のうち造形芸術やデザインをキーに再生が軌道に乗ってきた。起爆剤として整備された美術館の周りには、民間の画廊が増えた。現代美術館MCBAからボケリア市場にかけては、ニューデザインのレストランが軒を連ねている。北半分のイメージが好転したのに対して、ラバル地区の問題は南半分に押し込められ、凝縮されてし

まった。マフィアに組織された国外移民の売春や移民新派のインドーパキスタン系が増え、共生可能の限界に近づきつつある。ルンビエレスは、自らがラバルに根ざしたロメア劇場の支配人であることを生かして、舞台芸術による都市再生を南で試みようとしている。スポンジ化の最もスケールの大きなものとして実現したランブラ・ラバルは、スケールアウトしているとの批判もあり、がらんとしている。ランブラ・ラバルで、質の高い屋外舞台芸術を定期的開催する予定である。リセウ、ロメアなど各劇場とのネットワークを生かして、南部の再生を勢いづけたいとしている。

⑥ 行政との柔軟な対話のテーブルをつくる

ルンビエレスは、行政サイドの論理を知り尽くした上で、現在は市民側に立ち、パイプ役を買って出ている。彼は、行政の資金面での支援は活動に不可欠だという。しかし、「人的支援に甘えると、行政の下請けになり下がり主体的な活動がしにくくなるので、あまり喜ばしくなく、独自に人材を育成するほうがよい」という。彼が、行政に対して最も求めているのは、「柔軟に交渉できる対話のテーブル」である。「例えば、地区の生活の質を高めるために、スポンジ化手法で広場が誕生したとする。トット・ラバルは、最寄りバーにテラス席を出すように働きかける。テラス席の営業時間は、近隣住民に配慮して、0時までと決められている。違反すると都市警察が罰金をとりにやってくる。しかし、地区の治安や環境が好転するまでは、もう少し遅くまで、午前1時、2時まで、テラス席に人がにぎわっていたほうがよい場合もある。いちいち条例をいじらずに、条例の本質を共有して、柔軟に運用するための対話のテーブルが欲しい。」

要求から協働へ

近年の都市再生の動きに貢献したバルセロナの市民運動は、1970年代にフランコ独裁に抗する反体制運動を直接のルーツとしている。イデオロギーを掲げた闘争の一面もあったが、生活の質の向上を求める近隣住民組織の活動が大きな役割を果たした点に特徴がある。公共空間を充実させ、都市の空間的質を高めることを活動の目標にしてきた。社会的排除を生まずに都市の競争力を上げる都市再生が評価されている。1975年フランコの死以後、市当局は民主化され、市民運動のリーダーたちがごっそり都市政治や行政側のリーダーに入れ替わった。反体制が体制に回った。以後、政治リーダーシップと行政主導の都市再生が力強く推し進められた。他方、市民運動自体は急速に萎んだ。「なんでも反対」的な意固地な活動が目立つようになった。生活の質も著しく改善し、市民運動の熱は冷めた。

しかし、民主化市政誕生後、近隣住民組織は、自然に縮んでいったのではない。苦悩を深めて新たな活路を見出そうと足掻き続けている。特にラバル地区では、近隣住民の抱える課題から素直に出てくる要求は、バルセロナ全体の都市戦略と衝突し受け入れられない場合が多かった。稀に実現しても、期待を裏切る結果に終わった。近隣住民運動は連戦連敗の苦渋のうちに勢いを失っていった。

他方、市当局のラバル地区再生戦略は、自信に満ちたものだった。文化をキーに、昔からの住民をその地区にとどまらせ、かつ地区のグレードアップをはかる戦略的手法が目に見える成果を上げた。疲弊地区再生に集中的に公共投資することが都市全体の利益につながるという考え方への支持が強まった。

町会連合会は、民主化プロセスで多大な貢献をしたため、他都市よりも発言権が強い。

ラバル地区の伝統的な町会は、連合会を通じて活動を続けている。町会連合会会長の M. アンドレウは、「旧市街に集中的に 10 年で 1180 億ペセタ（1000 億円規模）公共投資をしたことは素晴らしいが、その多くが現代美術館 MACBA や現代文化センター CCCB など、外の目を集めるための施設建設に使われた。同じ 1180 億ペセタをもう少し多く近隣住民のために投資すれば、違った結果が得られていたのではないか。」³⁷と指摘する。旧来の住民を追い出さずにジェントリフィケーションの好循環をつくりだすことには成功したが、都市再生のショーケースとなった旧市街で住民は生活することを演じさせられている。

町会連合会の主張は正論だが、1970 年代とは異なり、彼らの論理の外で無視できない新たな問題が生まれている。旧来の住民と相容れない生活習慣を持つ国外移民の大量流入である。現在の近隣住民組織（町会）には、不法を含めた移民たちとともに活動する用意はない。

ラバル地区では今、市当局と近隣住民組織の関係がねじれ、ジェントリフィケーション効果で文化人が移り住み、新たな国外移民も共存している。「疲弊地区が多様な人たちの共生を保ちながら再生している」といえば、大成功に響く。だが、多様な人々はそれぞればらばらに振舞っている。

こうした現状を直視し、多様な組織が協働していくためのプラットフォーム「トット・ラバル」はできた。先進的な協働の枠組みづくりが、バルセロナで最も問題のこじれたラバル地区で始まっているところが注目に値する。そのきっかけをつくったのは、まちに並々ならぬ愛着を持っている数人の個人だった。市民の協働のプラットフォームづくりに、行政の役割は欠かせない。市の要職を歴任したルンビエレスの積極的な貢献なくして、トット・ラバルはここまで効果的な活動を展開できなかつただろう。

トット・ラバルは、ラバルと縁のある活動主体は種類や信条を問わずに受け入れている。トット・ラバルのほうから積極的に働きかけ、強かに拒まれない限り、メンバーに加わってもらっている。しかし、1960 年代から 70 年代の闘争の流れをくむ近隣住民組織だけは、頑なに参加を拒み続けているという。反体制を原点とする組織が、行政との協働へと脱皮するのは難しい。

ラバル地区の住民運動は、過去に反体制側から体制側への転身を成し遂げた後、長く方向の見えにくい状況を経て「要求から協働へ」新たな一步を踏み出そうとしている。

III.8-4. 都市再生から地域再生へ

バルセロナは、1992 年オリンピックと 2004 年文化フォーラムの 2 つの大イベントで巧妙に世界の視線をバルセロナに注がせ³⁸、世界中からの応援の声を背に、旧市街再生や工場跡地再生など息の長い地味な事業をゴールへと導いてきた³⁹。難しいところから着手し

³⁷ バルセロナ町会連合会 FavB/ Federació d'Associacions de Veïns i Veïnes de Barcelona Manel Andreu（連合会会長/ President）へのヒアリングより（2003 年 9 月）。

³⁸ Newsweek（2004 年 2 月 11 日号）「バルセロナは世界のモデル」など、2004 年文化フォーラムで都市バルセロナが注目されている。

³⁹ モンタネールは、El País 紙（2004 年 3 月 10 日付）寄稿の“La Barcelona real”で、「真のバルセロナモデ

て戦略的に「質から量へ」「部分から全体へ」と都市再生を発展させてきた。

旧市街再生は、ラバル地区再生後半期およびサンタカテリーナ市場周辺再生（E. ミラーリエスの遺作、ディアゴナル・マル公園と同じ設計者）をもって最終段階に入っている。工場跡地だったポブレノウ地区では、22@bcn の目標とする 2025 年ごろには槌音も収まっているだろう。1980 年代、産声を上げた都市再生のバルセロナモデルは、市民の多くが絵空事と思っていた「全体」像を現実のものとするに足る「量」を達成しつつある。

「その後」のバルセロナは、どうなるのだろうか。次なる展開の胎動は、一連の都市再生事業の評価と批判のうちに始まっている。2 回の大イベントと直接リンクした打ち上げ花火的な派手な事業が常に批判にさらされてきたのはいうまでもないが、地道で持続的な都市再生事業として高い評価を受けてきたラバル地区再生や 22@bcn に対しても批判や反省の声は少なくない。ラバル地区再生では、地区内だけを見れば再生に成功しているが、そこにあった社会問題は、周辺の中小都市の歴史地区に飛び火しているとの指摘がある。バダロナやオスピタレットなどの都市の歴史地区では、人口が局所的に減少し空家が増えていたが、近年急速に貧困や移民の問題が浮上している。

22@bcn では、雇用を創出する企業誘致に力を入れてきた。反面、22@bcn プロジェクトの進展は、地域の中心都市であるバルセロナに雇用機会が集中し偏在する傾向に拍車をかけた。市外の中小都市に住みバルセロナに通勤する就業者を増やした。

民間不動産コンサルタント会社によれば、就業者にとっての生活の質が欧州一高く評価されている⁴⁰。バルセロナ空港の年間利用者は 2000 万人を上回る。宿泊者は年間 870 万人で、夏季オリンピックが開催された 1992 年に比べても約 2 倍になっている⁴¹。観光客が増えることは一般に都市の魅力が上がっていることの証といえるが、あまりにも増えすぎていることに対する懸念も囁かれている。海岸線の新築マンションを購入できるニューリッチ層には、職住近接で質の高い生活のかなう都市だが、中流以下の人たちにとっては住みにくい都市になってしまった。都市の外へと住む場所を押し出される人が増え、通勤時間が長くなった。帰宅して昼食をとるスローライフの伝統が消えかけ、2 時間の昼休みが常識ではなくなろうとしている。地域的視野で、職住近接のコンパクトライフを実現するビジョンに立脚すべきだったとの指摘がある。周辺の中小都市にこそ質の高い雇用を創出し、22@bcn の地区では住宅供給を重視すべきだったとの批判である。

また、バルセロナは狭義の環境配慮では決して進んだ都市とはいえない。イギリスの都市計画史家ワードは、全世界的視野で都市計画の潮流を俯瞰した上で、「バルセロナの都市再生が高く評価されているのは事実だが、環境に配慮した都市づくりを指向してきた欧州北部の都市とは異なった路線を歩むものである。もっとも、コンパクトな都市を評価して

ルは、フォーラム 2004 の派手な事業より、より社会的で持続可能な周辺住民のための公共施設の秀作に見出せる」といっている。

⁴⁰ Cushman & Wakefield Healey & Baker 社の作成した *European Cities Monitor 2003* によると、バルセロナは 2 年連続で、就業者にとって生活の質の高い欧州都市の筆頭に掲げられている。パリ、ミュンヘンがこれに続く。また、企業進出するための欧州ベスト都市の総合ランクでは、ロンドン、パリ、フランクフルト、ブリュッセル、アムステルダムに次いで第 6 位。いずれも 2 年連続で変化がない。（Cushman & Wakefield Healey & Baker, 2003）

⁴¹ スペイン勸業省民間航空総局統計およびバルセロナ市観光調査による。10 年前は過半が商用で訪れていたのに対して、2003 年現在では観光目的での渡航が商用を上回っている。

持続させ、ブラウンフィールドを再生させていく手法は持続可能な発展と符合するが、都市のグリーン化という点では遅れ劣っている」と指摘している(Ward, 2002)。ゴミ問題や地球温暖化対策のための個別環境技術導入に北の諸都市ほど熱心でないことに加えて、持続可能な土地利用を維持するためのスプロール対策が不十分である。中心の疲弊地区の再生には成功したが、郊外の環境破壊は進む一方で車への依存度が高まっている。

これら批判の背景にあるものは、環境配慮の希薄さに加えて地域的視野の欠如である。地域として一極集中か多極分散かが問われている。バルセロナ都市圏は30近くの市町村に及んでいるが、現時点では都市圏レベルで都市計画の権限を持つ機関が存在しない。都市圏総合計画を策定した1976年には都市圏共同体が存在したが、1987年州の地域計画と統合する方向で解消した。しかし、州の地域計画は今のところ十分に機能しておらず、現実には行政区分上の市を超えてビジョンを構想する体制が整っていない。1970年代にくくられたバルセロナ都市圏より実際の影響圏が広域化していることを受けて、バルセロナ市のリーダーシップで総合計画時点での都市圏より広域のバルセロナ地域圏を戦略的に構想する動き⁴²が認められるものの、政権政党の異なる州との政治的駆引きが続き合意に至っていない。

元バルセロナ市長P. マラガルが3度目の挑戦で2003年秋に州知事に就任し、カタルーニャ州とバルセロナ市の政治的な関係に変化が生じた。カタルーニャ州全体あるいは広域バルセロナ圏として中小都市ネットワークからなる伝統的な都市システムを生かす方向性自体は、州・関係市町村にすでに共有されている⁴³が、それを実現するための制度基盤がこれからの課題となろう。バルセロナモデルの延長線上で考えるなら、狭義のバルセロナ市を「部分」ととらえ、質の高い部分から地域「全体へ」の展開が考えられる。地域における新しい中心性創造あるいは発掘がなされ、職住近接の地中海型コンパクトライフによる生活の質を追求する多心型地域発展のシナリオである。

人口300-400万人の広域バルセロナ圏を新たなフレームとして、2004年文化フォーラムを節目に、バルセロナモデルは、地域的スケールに適応しようと脱皮をはかっている。

III.8-5. 小括

バルセロナはこの四半世紀、公共が主導権を失わずに市場の力でどこまで都市戦略を実現できるのか、その限界に迫るべく挑んできた。欧州都市では伝統的に公共の計画権限が強く、新自由主義の風潮が強まる80年代以降、市場の活力を押さえ込んでいると批判されてきた。他方、規制の緩いアジアやアメリカの都市では、都市計画は市場メカニズムに「油を差す」役割に埋没する傾向が強かった。計画と市場はいつも対立の構図で論じられてき

⁴² バルセロナ市主導で460万人圏を対象地域圏ととらえている。狭義のバルセロナ市域を限るリョブレガット・ベソス両川沿いを重点エリアに位置づけ、物流・環境再生・都市再生を構想している。(Barcelona Regional S.A., 2004)

⁴³ 地理学者のO.ネロは、カタルーニャ州全体を集中かつ分散の地域構造ととらえて、バルセロナという単一の大都市を持ちながらもバランスの取れた中小都市ネットワークを維持する方向を提唱している。(Nel-lo, 2001)

た。これに対して、バルセロナ都市再生は、本章での考察から浮彫りになったように、計画と市場の2つの論理の間を振り子のように揺れ動きながら、両者の最適のバランスを常に求め続けるプロセスを辿ってきた。計画と市場を両輪とすることで、持続可能な発展の道筋に近づく試みであるといえる。

大局的に見れば、バルセロナの都市再生は、計画と市場の間を揺れ動きながらも、多くの欧州都市再生と同様に計画主導から市場重視へと重心を移す方向に向っている。しかし、日本の都市再生のように規制緩和による市場メカニズム偏重に流されるままではなく、あるいは計画復権を反動的に求めることもなく、22@の挑戦のように市場メカニズムに親和する計画手法で再びバランスを取り戻して都市開発の質を高めようとした点で大きな価値がある。

バルセロナモデルは、共同体の利益を優先させるという都市共同体思想の上に開花している。共同体としての都市が健在だからこそ、バルセロナモデルの萌芽期に、多重苦を抱える地区に公的支出を集中投下することに決定的反発はなく、質の高い公共空間が創出されたことの波及効果が民間再開発に浸透していった。そして、1992年オリンピック開催都市に決まった1986年が節目となり、官民パートナーシップのモデルへの道を開拓していった。

本章では、官が担う計画と民が担う市場とのせめぎ合いを軸に、バルセロナ都市再生のプロセスを考察してきた。「官と民」、「計画と市場」を、これまで論じてきたEU持続可能なシティ思想の文脈で読み替えれば、「社会的結束と経済開発のせめぎ合い」ということになる。1990年代EU持続可能なシティ政策の特徴のひとつは、失業・移民・社会的分極化という危急の課題を背景として、環境・経済・社会の3相のうち、「社会」の相の存在感が高まったことである。1980年代から都市バルセロナの遍歴は、EU持続可能なシティ思想を体現したものである半面、EU持続可能なシティ思想を育んだ都市経験のひとつであったという一面もあった⁴⁴。

バルセロナは、北の環境先進都市とは違うアプローチだが、「伝統的にコンパクトで、公共交通システムが発達し、ブラウンフィールド対策をいち早く進め、持続可能なシティの新しいパラダイムを考慮しているといえる」(Ward, 2002, 374)。しかし、ワードは、「いわゆる『グリーン』な都市づくりという意味では、他のスペイン都市同様に意識は低く遅れている」と指摘している(Ward, 2002, 374)。バルセロナの都市再生を追ってみると、社会と経済の持続可能な発展へのシナリオは見えてくるが、いわゆる狭義の環境の陰が極めて薄い。近年バルセロナは、こうした指摘を受けて、北の環境先進都市に学び、グリーンな都市づくりにも努力している。しかし、その成果をアピールしているわりには評価を得るに至っていない。

他方、北とは異なった価値観で環境をとらえる試みが注目に値する。第1は、高密度でコンパクトな都市であれば至って自然な発想であるが、人を取り巻く環境という観点からは建造環境を重視する考え方である。すなわち、本論で考察してきた公共空間政策の思想⁴⁵であり、都市のフィジカルな側面から環境へアプローチする発想である。第2は、社会と

⁴⁴ 1996年持続可能な都市報告書の表紙にはバルセロナの写真が抽象化されて用いられている。

⁴⁵ 公共空間政策が集中的かつ継続的に行われたラバル地区は、結束基金環境部門の補助を受け、建造環境改善に活用した(EC-Regional Policy, 2000a)。

環境の緊密な関係に着目する考え方である。一都市のスケールで見ると、社会的分極化を助長するスプロールを抑制し疲弊した中心の公共空間に多様な市民を吸引させる求心性を取り戻すことであり、バルセロナが実践してきた都市再生そのものである。バルセロナは、この考え方をさらに発展させて、グローバルな環境問題に取り組もうとしている。

1998年、バルセロナ現代文化センターで開催された『サステイナブルシティ』展と合わせて開催されたワークショップにおいて、大方の専門家たちは、社会的結束の腐敗と環境悪化の間に緊密な関係があることに同意し、環境の悪化は拡散した市街地を含む都市圏の社会排除と分極化の帰結であるとした (Tello, 2004, 229)。すなわち、経済のグローバル化は、生産と消費の決定権を握っている人たちと、そのことによる環境社会的影響に苦しむ人たちの距離を隔てる傾向にある。だが、地方の民主的な自治が決定権を持ち自治を一層強化するかたちのグローバル化でなければ、環境的に持続可能で人間的な発展を実現する新しいかたちには向かわない (Tello, 2004, 247)。持続可能な環境を実現するためにも、「市民生活に関わる決定が遠く離れたところで行われず民主的な地方自治で行われること」が求められる。

地球と市場を怒らせないように進もうとするあまり、とかく天の声を聴く傾向にあるサステイナブルシティへの取組みに対して、バルセロナは、人間の暮らす都市として持続していくためにより根源的に求められるものは、「多様な人たちがにぎやかに集って暮らし、自分たちに関係のある決定を民主的な地方政治で行えることではないか」という問題提起を投げかけ続けている。疲弊地区に穿った小広場はその原点にほかならない。

終章

9-1. 欧州サステイナブルシティの特徴とその要件

欧州サステイナブルシティ思想の特徴

1990年代を通じて徐々に立ち現れてきた欧州サステイナブルシティの姿は、地球環境に配慮するだけでなく人間主義的に再生された都市であり、大都市ばかりでなく中小都市が多角的にネットワークするシステムに居場所を与えられた都市であった。

i 人間主義的なサステイナブルシティ像

EU環境政策面から初めて都市環境に対して出された提言である1990年都市環境緑書は、都市環境問題の根源として機能主義を名指しであげた。即効性のありそうな地球環境負荷低減策に惑わされず、単機能ゾーニングにより非人間的な場所に仕立て上げられてしまった都市に人間性を回復する方向で、都市環境対策を進めることを提言している〔第4章〕。こうした発想を実践に結び付けた1例が、バルセロナの22@事業である。工業専用だったブラウンフィールドを転換し、知識社会に適合した混在型の都市集積を誘導する試みである〔第8章〕。

緑書を原点として、環境面から提示されるサステイナブルシティ像は、経済・環境・社会文化の3相をバランスさせる考え方へと発展していく。緑書のサステイナブルシティ像が最も人間主義的であり、以降、緑書ほど強調されなくなっていくが、環境面から提唱されるサステイナブルシティの底流には緑書の思想が受け継がれている〔第4章〕。

地域政策の一環で都市を対象としたものは、EUにおいては、サステイナブルシティ政策と同義であるといえるほど、サステイナビリティは地域政策面からのEU都市政策のキーワードとなっている。地域政策面からの提言である1997年『都市アジェンダへ向けて』は、地域政策の重要課題が失業問題にあるために、サステイナビリティの社会的側面が突出したものになっている。すなわち、先述の環境政策面からのサステイナブルシティ像以上に、人間が人間らしく暮らせる都市のイメージが色濃い〔第5章〕。

「サステイナブル」という概念自体は、地球環境問題を契機に世界中に浸透していった経緯がある。この系譜から、日本やアメリカでは地球環境主義的サステイナブルシティ像が強い。いわゆるクリーンな都市環境を目指す取り組みやエネルギーや廃棄物問題を見直して地球環境負荷を低減する努力が進められている。これら地球環境主義的なサステイナブルシティ像と比べるなら、欧州の示すサステイナブルシティ像はより人間主義的なところに特徴があるといえよう。

バルセロナの疲弊地区ラバルの公共空間政策やビルバオ都市再生戦略など、失業・移民問題、歴史的街並みなどフィジカルな空間の質を改善する実験的な政策が、サステイナブルシティへの取り組みと読み替えられていった。疲弊地区に住む住民は、そもそも地球環境問題に対する関心は乏しいが、自分の生活の質が改善する実感を得て、援助や生活保護に頼りきった生活から踏み出し自発的な努力へと動かされていった。また、他の地区に住む市民も、自都市の中心疲弊地区の社会的問題が緩み、中心本来のにぎわいの場が再生され

ることに、間接的ではあるが日常生活の豊かさを感じている [第7, 8章]。きれいな空気や水、緑豊かな生活環境も、人間のつくった広場や街路など質の高い建造環境も、多様な市民を包摂する社会文化環境も、都市全体の人間的な生活の質を充実させようとして、市民が自発的に求め続けているものである。これらを統合的にとらえたところに、人間主義的な性格の強い欧州サステイナブルシティ像は形成された。

ii 多心型都市ネットワークシステム

地域政策面から提示された『都市アジェンダへ向けて』は、世界の他の地域と比べて中小都市が多く相互に近接している点を、欧州都市システムの特徴としてあげ、中世から継承されてきた貴重な資産であるとしている。欧州は、この多心型都市ネットワークシステムを現代に生かしていく方向で、サステイナブルな発展を探っている [第5章]。空間開発見直し ESDP は、多心型の都市ネットワークシステムが欧州全体の骨格となり、ネットワークの結節点である都市が農村と相互補完関係を強めることにより、環境・経済・社会のサステナビリティをバランスよく欧州全体で追求していくシナリオを提示した [第6章]。EU 環境政策面からは、緑書冒頭で、隠喩的ながら、中世以来、脈々と受け継がれた都市ネットワークシステムに好意的な記述が見られる [第4章]。

バスク州は、経済中心ビルバオなど都市機能を複数都市で分担してきた多心型地域システムを伝統的に持ち合わせていた。これをサステイナブル指向と結び付け、バスク・シティ・リージョンを戦略的に提唱している [第7章]。カタルーニャ州は、バルセロナ1極に偏った地域構造ではあるが、中心疲弊地区や工場跡地再生が一段落した今、地域再生ヘエリアを広げて、バルセロナ郊外のスプロールを抑制して周辺の伝統的中小都市を核にコンパクトな都市集積を誘導する方策を模索している [第8章]。

欧州のサステイナブルシティ思想は、欧州総体として中小都市を尊重した多心型都市ネットワークシステムを描き出している。地域政策・環境政策の両面から、コンパクトシティ支持の論調が目立つが、いずれも、既存の中小都市の多いネットワークシステムを生かし、都市と農村が互いのよさにより相互補完関係を強められるように、こぢんまりとした都市を推奨するものである。日本は欧州同様あるいはそれ以上に中小都市が近接する伝統的都市ネットワークを持ち合わせているにもかかわらず、コンパクトシティ論が一極集中を容認するほうに利用され、多心型都市システムを基盤としたサステイナブルな発展のシナリオに結び付いていない。

もっとも、「人間主義的」「多心型」を特徴とする欧州サステイナブルシティ像には、欧州内でも懐疑的な声もある。雇用問題や疲弊地区問題など都市の社会的サステナビリティや空間的なサステナビリティがときに突出し、有限な環境容量を前提とする環境思想と矛盾し、環境破壊をもたらす経済開発を正当化しかねないという指摘である。また、前近代へのノスタルジーでしかなく、現実の問題から逃避するだけであるとの批判がある。欧州都市の「人間主義的」「多心型」志向は、1960年代から根強くあったが、少数派にとどまっていた。これが、「サステイナブルな発展」の思想と「欧州化」の応援を得て力強さを増したのが1990年代である。欧州サステイナブルシティの目指す方向は、不確かな面もあるが、極端に地球環境主義的なサステイナブルシティ思想のアンチテーゼとしては有効であるといえる。

欧州サステイナブルシティを支えた要件

なぜ欧州は、「人間主義的」「多心型」を特徴とし、多様な欧州市民が生活の質の充実を実感できる政策を支えるサステイナブルシティ思想へと収斂させることができたのだろうか。本研究で「EU」と「都市、地域、シティ・リージョン」が直接結びつく構図に着目したことにより、5つの要件が抽出された。以下5要件は、後述するように相互に複雑に絡み合っている。

① ピンぼけのサステイナブルシティ像のまま、実験的に政策に着手したこと

「サステイナブルな発展」とは、自明な政策目標というよりは政治的合意の性格が強い。サステイナブルシティは、曖昧にしか定義できない「サステイナブルな発展」への取り組みを、問題が複合化している都市を対象に実践する焦点の定まりにくい試みであった。欧州各都市ですでに試みられていた実験的政策を下敷きにして、環境政策面からは、都市環境専門家グループを組織し、サステイナブルシティとは何かを時間をかけて議論する一方、サステイナブル都市キャンペーンを展開し、都市相互のネットワークづくりを支援してきた[第4章]。また、地域開発基金による都市向け補助政策を充実させて、サステイナブルシティの実験を進めていった[第2章]。概念化と実践を平行して進めることにより、サステイナブルシティ像は具体化していった。

② 従前の都市政策をまるごと、サステイナブルシティ政策ととらえなおしていったこと

環境政策で「サステイナブルな発展」を掲げたのは1993年第5次環境行動計画が最初で、「サステイナブルシティ」の語が登場するのは、同年スタートしたサステイナブル都市プロジェクトである[第4章]。また、地域政策では1994年以降の先進的取組みUPPⅡで「サステイナブルな発展と市民生活の質をもたらす」革新的な試みを募集したのが最初である[第2章]。

しかし、実態としての政策は、1992年のリオあるいは1993年マーストリヒト以前から継続している。環境政策では1990年都市環境緑書に示された理念に遡ってサステイナブルシティを見出すことができる[第4章]。地域政策では、1989年にスタートしたUPPⅠは事実上サステイナブルシティの実験である[第2章]。すなわち、EUレベルの都市に関する政策はサステイナブルシティ政策と実態としてはほぼ完全に重なると考えられる。

サステイナブルシティは、従前の都市政策を大きく変えずに新たに付加された政策分野ではない。現代都市の抱える問題を幅広く統合的にとらえ、現実に行われている対策を体系化し直すことにより欧州サステイナブルシティ思想は形成された。

③ サステイナブルシティ政策に関しては、EUが多様な主体による合意形成の場として機能しやすかったこと

政策取りまとめに主導的な主体が存在せず¹、関係する主体がそれぞれ異なった利害を持っている場合、政策決定のプロセスはとかく迷走する。当初の目標が優れていても、特定の

¹ EUレベルのサステイナブルシティ政策において主導的な役割を果たしているのは、欧州委員会（例えば地域政策総局）以外にない。しかし、地方レベルが原則として排他的に都市政策に関する権限を握っている。地方より上位に限定的な権限を逆移譲している国は少なくないが、国が最上位でEUレベルには都市政策に関する権限は認められていない。

主体の利害と決定的に対立すれば、政策は捻じ曲げられていく。多様な主体が関わるだけでは、どの主体にも害のないおとなしい政策に埋没する危険性が高い。

しかし、複数の主権国家を束ねる EU の政策は、欧州全体の利益となる考え方を提示しようとする知恵を絞ることで、自己の主張の実現可能性も有効性も高まるという協議による合意形成への信頼が前提である。加盟各国が相互調整する合意形成がしばしば難航するなか、サステイナブルシティ政策は、EU と地域・都市がパートナーシップを結ぶ実験的な合意形成の場として位置づけられた。合意形成にあたっては、大国の狭間で相対的に自立した発展を探求しつつきてきた小地域がロビー活動などを通じてその知恵を発揮する機会が少なくなかった [第 3 章]。

④ 地域・都市の主体的な動きが強まったこと

国民国家の枠に甘んじてない地域や都市が、欧州レベルで振舞おうとする動きは以前からあった。地域主義あるいは地域のナショナリズムの動きである。バスクやカタルーニャの例が示すように、これまで国民国家への抵抗というかたちでしか発揮できなかった地域主義の力が、EU レベル地域政策の形成に関与する方向へと矛先を変えていった [第 7, 8 章]。こうした圧力に応じて、1990 年代に入り、EU 側も「地域の多様性」を重視する方針を強め、1980 年代まで EU レベル政策の客体でしかなかった地域が、1990 年代から主体的に関わるしくみが整備された。

⑤ 市民社会共同体としての都市への信頼が残っていること

欧州都市においても、市場競争が激化する一方、市民共同体意識は低下している。それでも、欧州には、都市の空間的な質が豊かさを実感させ、市民共同体が問題を解決するフィジカルな場としての都市公共空間の役割は消えてはいない [第 8 章]。また、歴史的に欧州が最も定常状態に近い安定的な発展を実現したのは中世であった。中心一周縁の構造ではなく都市を結節点とするネットワーク構造が支配的で、地域間の格差を緩和するメカニズムがあった。欧州共同体として格差拡大を抑制し社会的結束を強めていく試行錯誤の過程で、多様な欧州の間でかろうじて共有されていたのは、市民共同体としての都市という原点であり都市の持っている力への信頼であった。

1990 年代欧州における都市・地域の役割

上述 5 要件のうち、要件①②③は、多様な主体のインターフェイスで政策を形成していくための器に求められる要件に一般化可能であり、参加型地域経営やガバナンス論などで様々なかたちで提示されていることである。政策の実効性を高めるために、多様な主体が建設的に参加する政策形成プロセスへ移行することの必要性はわが国でも認識され各地で試みられているが、概して大枠では既成の政策のしくみを温存しているために、中途半端な改革に落ち着いている場合が少なくない。他方、本研究の対象である EU サステイナブルシティ政策は、多様な主体のインターフェイス以外に選択肢がないだけに、そのプロセスの困難さと建設的政策に昇華させていくための必須要件が鮮明に見取れる。

もしこれらの 3 要件を備えた器が EU レベルに用意されていなかったなら、1990 年代 EU サステイナブルシティ政策は醸成しなかったであろう。しかしながら、3 要件を備えた政策決定のしくみさえあれば、「人間主義的」「多心型都市システム」を特徴とするサステイナブルシティ政策が形成されていくという必然性はない。

欧州において、地球環境主義的な面と人間主義的な面が表裏一体となったサステイナブルシティ像を具体化する決め手となったのは、④と⑤に示した要件が1990年代の欧州で突出していたからである。1990年代共同体としてのEU全体の利益にとって最優先の課題は、経済自由市場が健全に機能する程度に**南北間不均衡を是正**することであった。富の再配分をEUレベルで恒常的に行うのではなく、南側諸地域の経済開発が自立的に進むことを促す政策が求められた。そのためには、地域主義の力と都市に潜在する力を生かすことであった。

南欧諸地域のうち最も多くの構造・結束基金を受けていたスペインは、北部のバスク・カタルーニャの**ナショナリズム運動**で消耗し、国内的には経済発展を阻まれていた。他方、経済的に優位な北部地域も、中央政府の介入により自立的な発展を抑えられていた。これら地域・都市が、欧州レベルで主体的に行動できる条件が整えば、潜在する地域主義の力を生かした自立的な地域発展の可能性が生まれる。これが1990年代に顕著となった④の要件である。

南欧諸地域では、アルプス以北の地域以上に、**都市が地域発展の原動力である反面、都市問題が地域発展の足枷**であった。欧州都市社会のルーツである地中海文化圏の地域では戦略的に都市の占める位置は重かった。すなわち、要件⑤が北の諸地域以上に意識されていた。都市の疲弊地区にターゲットを絞り、人間主義的に都市を再生していくことで、都市全体・地域の発展を戦略的に促す実験が始まっていた。こうした試行錯誤は、都市を戦略的に位置づけた「サステイナブルな発展」への挑戦そのものであった。

こうした都市的伝統の強い南欧諸地域の試みをローカルな動きに終わらせず、EUレベルに生かすことに寄与したのが要件①②③であった。欧州は、地球レベルの命題である「サステイナブルな発展」をなるべく広くとらえたまま議論を進めた。サステイナブルシティの目標・手法・評価をマニュアル化するのではなく、すでに試みられている実験的な都市対策をサステイナブルシティ政策と読み替える方向で、地域の問題に応じて当然異なるいくつかのシナリオへの可能性を広げた。

個々のサステイナブルシティがシティ・リージョンの核をなし、シティ・リージョンを基本単位として2層の多心型都市システムに欧州のサステイナブルな発展の軌道を絞り込むことの決め手となったのも、要件④⑤である。『都市アジェンダへ向けて』や『ESDP』の政策形成過程においては、要件①②③が現れている。基本的には各国やEUを複数主要主体とした協議により合意されていった。会議、ロビー活動や意見書など多様なかたちをとりながら都市や地域の意見も反映され、都市と地域の立場が同等に立てられた結果、シティ・リージョンが基本単位となっている。

共同体としてのEUにとって、地域の強弱・大小によらず、あらゆる地域が尊重されていることが基本理念である。地域の文化的多様性は、経済基盤としての都市システムよりはるかに根源的な基盤として認識されている。したがって、効率や経済競争力は都市システムを評価する基準のひとつでしかなく、**環境負荷低減に加えて地域政治紛争の回避や欧州全体としての中心一周縁間の格差拡大の最小化**などの判断基準を統合して、サステイナブルシティの延長で、2層の多心型都市システムによる欧州の発展ビジョンを共有するに至っている。2層とはすなわち、シティ・リージョンを基本単位とし、シティ・リージョン内にも多心型ネットワークが形成され、欧州全体としては複数のシティ・リージョンが

多心型システムを構成しているイメージである。

通貨統合により一段と深化する経済自由市場に任せれば、自ずと諸都市や諸地域が勝ち組と負け組に分化する。であればなおさら、欧州統合のより根源的な生命線である地域の多様性を維持するための多心型都市システムは政策的に求められてくる。2層の多心型都市システムを骨格とする空間イメージは、「地域からなる欧州」「都市からなる欧州」を体現したものにほかならず、要件④⑤の空間的投影である。この空間的イメージと対応したガバナンスのしくみが現実的であるとは必ずしも言えないが、1990年代、少なくとも欧州のサステイナブルな発展の方向として支持を集めていった。

9-2. 今後の研究課題

サステイナブルシティへの関心は、アジェンダ 2000 の打ち上げ花火を最後に、EU レベルでは急速に薄らいでいった。一般に言われているように 2000 年以降の予算制約による打撃が直接の理由であろう。しかし、本研究が示したように、サステイナブルシティ政策が多方面から支持され大きな広がりを見せた 1990 年代が都市的伝統を特徴とする南欧諸地域のキャッチアップが EU レベルの優先課題だった時期と一致することを合わせて考えると、2000 年以降、EU レベルでサステイナブルシティへの関心が萎んでいった、より本質的な要因が見えてくる。

すなわち、2000 年以降、EU の共同体としての利益は、南欧諸地域との結束強化から東欧への拡大成功に移っていった。東欧は南欧ほど都市を戦略的に位置づけにくいし、欧州化で可能性を拡大する地域主義の目立った動きも南欧ほどない。むしろ、社会主義体制下の計画経済から市場自由化への移行がバネとなり、発展の可能性が広がることに期待している。EU 環境政策が市場メカニズムの活用を一段と重要視するようになったことと無関係ではなかろう。本論で明らかになった 1990 年代のサステイナブルシティ政策と南欧に潜在する力の関係から推論するなら、今日の EU レベル政策は東欧の潜在力を生かし自発的な発展を引き出す方向へ重心を移しているはずである。都市の比重は下がるが、どのようなサステイナブルな発展のシナリオが東欧との関係から EU レベルであぶりだされてくるのか、新たな研究課題を提示している。

2000 年の転換点は、サステイナブルシティ研究自体の必要性が薄れたことを意味するものではない。EU レベルに限定してサステイナブルシティ政策を考察するなら、2000 年以降、力強さを失ったといわざるをえないが、それがすなわち欧州におけるサステイナブルシティ政策の後退ではない。むしろ、EU という枠に庇護されている状態を離れて、欧州レベルのネットワークの活動にフィールドを移し、それぞれの都市が自発的に取り組んでいるという見方ができる。アルプス以北の都市でも、地中海都市のにぎわいをヒントにした都市再生が進み、人間主義的サステイナブルシティが欧州化する傾向が見られる。他方、高密度でコンパクトな都市の手本とされ、そもそもサステイナブルシティの理想像であったバルセロナでは、遅れが指摘されていた地球環境主義的サステイナブルシティへの取り組みを強化してきた。その陰で、郊外化が急速に進展し、理想のモデルから遠ざかる傾向にある。本来、表裏一体で追求してきたはずのサステイナブルシティの人間主義的な面と地

球環境主義的な面がねじれ、ひとつの都市像に収斂しているとはいいがたい。1990年代欧州諸都市は、それぞれの地域や都市の課題を直視して、いくつものサステイナブルシティのシナリオを描き進んできた。それぞれの都市は、どのような成果を上げ、新たな課題として何を提示しているのだろうか——「創造的で多機能型の都市は、最も住みやすい都市でもあり、最も汚染しない都市である」つまり、「そこに住む人間にやさしい都市は、地球環境にもやさしい都市である」という欧州サステイナブルシティの原点に立ち戻って、今後は、EU政策というめがねを通して見えてくるものだけではなく、広く「欧州化と都市」の視点からサステイナブルシティについて考察していく必要がある。

参考文献 · 资料

- Allen, D. (2000) Cohesion and the Structural Funds. In Wallace and Wallace eds, 243-266.
- Andersen, M.S. and Duncan, L. (1997) *European Environmental Policies, The pioneers*, Manchester: Manchester University Press.
- Arquitectura Viva* 07-08/1997, Guggenheim Bilbao –Frank Gehry, un museo americano y vasco.
- Ascher, F. (1995) *Metapolis, ou l'avenir des villes*, Paris: Ed. Odile Jacob.
- Atkinson, R. (2001) The Emerging 'Urban Agenda' and the European Spatial Development Perspective: Towards an EU Urban Policy?, *European Planning Studies*, v9 n3, 385-406.
- Bache, I. (1998) *The Politics of European Union Regional Policy: Multilevel Governance or Flexible Gatekeeping?* Sheffield: Sheffield Academic Press.
- Bagnasco, A. and Le Galès, P. (2000) European cities: local societies and collective actors? In Bagnasco and Le Galès eds, 1-32.
- Bagnasco, A. and Le Galès, P. eds (2000) *Cities in Contemporary Europe*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Balchin, P. and Sýkora, L. (1999) *Regional Policy and Planning in Europe*, London : Routledge.
- Balibrea, M.P. (2004) Urbanism, culture and the post-industrial city: challenging the "Barcelona Model". In Marshall ed, 205-224.
- Barbanete, A. and Tedesco, C. (2002) The European Urban Initiative: Multi-Level Learning Processes between Successes and Failures, Turin: paper presented at the *EURA conference* Urban and Spatial European Policies.
- Barcelona Regional S.A. (2004) Barcelona's new projects. In Marshall ed, 175-190.
- Barcelona, Ajuntament de (1983) *Plans i projectes per a Barcelona 1981-1982*, Barcelona.
- Barcelona, Ajuntament de (1987) *Barcelona Espais i Escultures 1982-1986*, Barcelona.
- Barcelona, Ajuntament de (1988) *Urbanisme a Barcelona – Plans cap al 92*, Barcelona.
- Barcelona, Ajuntament de (1999) *Barcelona 1979/2004 –del desarrollo a la ciudad de calidad*, Barcelona
- Barnier, M. (2002) Cities and Cohesion – Lessons from the URBAN Community Initiative, Speech/02/335.
- Batten, D.F. (1995) Network Cities: Creative Urban Agglomerations for the 21st Century, *Urban Studies*, v32 n2, 313-327.
- Becker, E. and Jahn, T. eds (1999) *Sustainability and the Social Sciences*, London and New York: Zed Books Ltd.
- Bellet, C. and Llop, M.J. eds (2000) *Ciudades Intermedias - Urbanización y Sostenibilidad*, Lleida: Editorial Milenio.
- Benevolo, L. (1993) *The European City*, Oxford: Blackwell.
- Berg, P.O. and Löfgren, O. (2000) Studying the Birth of a Transnational Region. In Berg et al eds, 7-26.
- Berg, P.O., Linde-Laursen, A. and Löfgren, O. (2000) *Invoking a Transnational Metropolis, The making of the Oresund Region*, Lund: Studentlitteratur.
- Bilbao Ría 2000 (1998) *Memoria 1998*.
- Bilbao Ría 2000 and Ayuntamiento de Barakaldo (2000) *Urban Barakaldo 1995-1999*.
- Bilbao, Ayuntamiento de (1992) *Plan General de Ordenación Urbana*.
- BM30/ Bilbao Metropoli-30 (1989) *Plan Estratégico para la Revitalización del Bilbao Metropolitano*.
- BM30/ Bilbao Metropoli-30 (1996) *Informe Anual de Progreso*.
- BM30/ Bilbao Metropoli-30 (1998) *Informe de Progreso*.

- Boddy, M. and Parkinson, M. eds (2004) *City Matters, Competitiveness, cohesion and urban governance*, Bristol: The Policy Press.
- Bohigas, O. (1985) *Reconstrucció de Barcelona*, Barcelona: Edicions62.
- Bonet Correa, A., Miranda, F. And Lorenzo, S. (1985) *La Polemica Ingenieros-Arquitectos en España Siglo XIX*, Madrid: Turner.
- Borja, J. and Muxi Z. (2001) *L'espei public: ciutat i ciutadania*, Barcelona : Diputacio de Barcelona.
- Borja, J. y Castells, M. (1997) *Local y Global*, Madrid and Buenos Aires: Taurus.
- Bridge, G and Watson, S. eds (2000) *A Companion to the City*, Oxford: Blackwell.
- Bru, E. (2001) *Coming from the South*, Barcelona: Actar.
- Brunet, R. (1989) *Les Villes Européennes, Rapport pour la DATAR*, Reclus, Paris: Documentation Française.
- Brunet, R. (2000) Des villes comme Lleida. Place et perspectives des villes moyennes en Europe. In Bellet y Llop eds, 109-124.
- Burton, E. (2000) The Potential of the Compact City for Promoting Social Equity. In Williams et al eds, 19-29.
- Busquets, J. (2004) *Barcelona –La construcció urbanística de una ciudad compacta*, Barcelona: Serbal.
- Calavita, N. and Ferrer, A. (2000) Behind Barcelona's success story – Citizens movements and planners' power, *Journal of Urban History*, v26 n6, 793-807.
- Camagni, R. (2001) The Economic Role and Spatial Contradictions of Global City-Regions: The Functiional, Cognitive, and Evolutionary Context. In Scott ed, 96-118.
- Carmona, M. (2001) Sustainable Urban Design – A Possible Agenda. In Layard et al eds, 165-192.
- Castells, M. (1974, french ed 1972) *La cuestión urbana*, Mexico: siglo veintiuno editores. 山田操訳 (1984) 『都市問題』 恒星社厚生閣
- Castells, M. (1989) *The Informational City*, Blackwell. 大沢善信 訳 (1999) 『都市・情報・グローバル経済』 青木書店
- Magrassi, M. (1999) *Stories of Municipal Innovation: Implementation of EC Policies in Southern Italian Cities*, Master in City Planning at MIT.
- CCCB ed (1999) *La reconquista de Europa 1980-1999 - Espacio público urbano*, Barcelona.
- Cheshire, P. (1995) A new phase of urban development in western Europe? The evidence for the 1980's, *Urban Studies*, v32 n7, 1045-1064.
- Clark, W.A.V. (2000) 'Monocentric to Policentric: New Urban Forms and Old Paradigms'. In Bridge and Watson eds, 141-154.
- CoR/ Committee of the Regions (1998) *Opinion on Towards an urban agenda in the European Union*.
- CoR/ Committee of the Regions (2000) *Opinion on the Communication from the Commission on the global assessment of the European Community programme of policy and action in relation to the environment and sustainable development, "Towards Sustainability" (Fifth Environmental Action Programme)*.
- CSD/ Committee on Spatial Development (1997) *European Spatial Development Perspective –First official draft*, Noordwijk, June.
- CSD/ Committee on Spatial Development (1999) *ESDP: European Spatial Development Perspective –Towards Balanced and Sustainable Development of the Territory of the EU*, Potsdam, May.
- Cuchillo, M. (1993) The Autonomous Communities as the Spanish Meso. In Sharpe ed, 210-246.
- Cushman & Wakefield Healey & Baker (2003) *European City Monitor 2003*.

- Dematteis, G (1998) Suburbanización y periurbanización -Ciudades anglosajonas y ciudades latinas. In Monclús ed, 17-33.
- Dematteis, G (2000) Spatial Images of European Urbanisation. In Bagnasco and Le Galès eds, 48-73.
- Devuyt, D. ed (2001) *How Green is the City?, Sustainable Assessment and the Management of Urban Environments*, New York: Columbia University Press.
- Domingo, M. and Bonet, M. R. (1998) *Barcelona i els moviments socials urbans*, Barcelona: Mediterrània.
- EC/ European Commission, Environment (1990) *Green Paper on the Urban Environment*.
- EC/ European Commission, Environment (1992) *The European Community's Fifth Environmental Action Programme "Towards Sustainability"*.
- EC/ European Commission, Environment (2000a) *Global Assessment "Europe's Environment: What Directions for the Future?"*
- EC/ European Commission, Environment (2000b) *The Sixth Environment Action Programme of the European Community 2001-2010 "Environment 2010: Our Future, Our Choice"*.
- EC/ European Commission, Environment (2004) *Towards a thematic strategy on the urban environment*.
- EC/ European Commission, Eurostat (2002) *Regions: Statistical Yearbook 2002*.
- EC/ European Commission, Eurostat (2003) *Regions: Statistical Yearbook 2003*.
- EC/ European Commission, Regional Policy (1991) *Europe2000 –Outlook for the Development of the Community's Territory*.
- EC/ European Commission, Regional Policy (1994) *Europe2000+ –Cooperation for European territorial development*.
- EC/ European Commission, Regional Policy (1997a) *Annual Report of the Cohesion Fund 1995*.
- EC/ European Commission, Regional Policy (1997b) *Towards an urban agenda in the European Union*, COM(97)197 final.
- EC/ European Commission, Regional Policy (1997c) *Europe's Cities –Community measures in urban areas*.
- EC/ European Commission, Regional Policy (1997d) *Urban Pilot Projects – Annual Report 1997*.
- EC/ European Commission, Regional Policy (1997e) *Regional development Studies, The EU compendium of spatial planning systems and policies*.
- EC/ European Commission, Regional Policy (1998a) *Sustainable Urban Development in the European Union: A Framework for Action*, COM(1998)605 final.
- EC/ European Commission, Regional Policy (1998b) *Urban Pilot Projects Phase II – 1997-99 Project Descriptions*.
- EC/ European Commission, Regional Policy (1999a) *Regional development Studies, The EU compendium of spatial planning systems and policies, Spain*.
- EC/ European Commission, Regional Policy (1999b) *Urban Community Initiative -Summary Descriptions of Operational Programmes*.
- EC/ European Commission, Regional Policy (2000a) *Environmental Projects -maps- Spain, Greece, Ireland and Portugal*.
- EC/ European Commission, Regional Policy (2000b) *Regional development Studies, The EU compendium of spatial planning systems and policies, Italy*.
- EC/ European Commission, Regional Policy (2000c) *TERRA, An experimental laboratory in spatial planning*.
- EC/ European Commission, Regional Policy (2000d) *The Urban Audit – Towards the Benchmarking of Quality of*

Life in 58 European Cities.

EC/ European Commission, Regional Policy (2000e) *URBAN Success Stories – Building a Better Tomorrow in Deprived Neighbourhoods.*

EC/ European Commission, Regional Policy (2002) *The Programming of the Structural Funds 2000-2006, an initial assessment of the Urban initiative.*

EC/ European Commission, Research (2000) *Design for Living – The European Living for Tomorrow.*

EC/ European Commission, Research (2002) *A City for Pedestrians – Policy Making and Implimentation*, COST Action C6.

EEA/ European Environment Agency (1993) *Europe's Environment – The Dobris Assesment.*

EEA/ European Environment Agency (1997) *Towards Sustainable Development for Local Authorities, Approaches, Experiences and Sources.*

EEA/ European Environment Agency (2002) *Towards an urban atlas, Assessment of spatial data on 25 European cities and urban areas*, Enviornmental issue report No.30.

Esteban, J. (1998/1st:1980) *Elementos de Ordenación Urbana*, Barcelona: UPC.

Esteban, J. (1999) *El projecte urbanistic –Valorar la perifèria i recuperar el centre*, Model Barcelona Quaderns de gestió n2, Barcelona: Aula Barcelona.

Eurocities (1998) *Response to the Commission's Communication "Towards an Urban Agenda in the European Union"*.

European Foundation for the Improvement of Living and Working Conditions (1996) *What Future for Urban Enviornments in Europe?*, Contribution to Habitat , with Interviews of Ministers of Urban Affairs in the European Union.

European Foundation for the Improvement of Living and Working Conditions (1997) *Utopias and Realities of Urban Sustainable Development, New Alliances between Economy, Enviornment and Democracy for Small and Medium-Sized Cities.*

Evans, D. and Taylor, P.J. (2001) *The East Midlands Polycentric Urban Region – A Pilot Study*, GaWC project 17 <http://www.lboro.ac.uk/departments/gy/gawc/projects/projec17.html>

Evans, G (2001) *Cultural Planning, An urban renaissance?* London: Routledge

Expert Group on the Urban Enviornment (1996) *European Sustainable Cities.*

Expert Group on the Urban Enviornment (1998) *Response on the Communication 'Towards an Urban Agenda in the European Union'.*

Faludi, A. and van der Valk, A. (1994) *Rule and Order; Dutch Planning Doctrine in the Twentieth Century*, London, Dordrecht: Kluwer.

Faludi, A. and Waterhout B. (2002) *The making of the European Spatial Development Perspective, No masterplan*, London: Routledge.

FavB/ Federació d'Associacions de Veïns i Veïnes de Barcelona (1999) *La Barcelona dels barris*, Barcelona.

Financial Times 03/09/2001, Guggenheim, Bilbao and the hot banana.

Financial Times 27/04/2001, Guggenheim reinvents Bilbao.

Frey, H. (1999) *Designing the City, Towards a more sustainable urban form*, London: E&FN Spon.

Fujita, M., Krugman, P. and Venables, A.J. (1999) *The Spatial Economy, Cities, Regions; and International Trade*, Cambridge: MIT Press. 藤田昌久ほか著 小出博之 訳 (2000) 『空間経済学—都市・地域・国際貿易の新しい』

分析』東洋経済新報社

García Canclini, N. (1999) *La Globalización Imaginada*, Buenos Aires, Barcelona and México: Editorial Paidós SAICF.

García Espuche, A. (1999) La reconquista de Europa –¿Por qué el espacio público? In CCCB ed: 8-35.

Geo especial 02/1998, Bilbao en vanguardia - el Impacto Guggenheim.

Gómez, M.V. (1998) Reflective Images –The Case of Urban Regeneration in Glasgow and Bilbao, *International Journal of Urban and Regional Research*, v22 n1, 106-121.

González, J.M. (1993) Bilbao: culture, citizenship and quality of life. In Bianchini and Parkinson eds, 73-89.

Bianchini, F. and Parkinson, M. eds (1993) *Cultural Policy and Urban Regeneration – The Western European Experience*, Manchester: Manchester University Press.

Gottmann, J. (1964) *Megalopolis, The Urbanized Northeastern Seaboard of the United States*, Cambridge: MIT Press.

Graham, S. and Marvin S. (2001) *Splintering Urbanism, networked infrastructures, technological mobilities and the urban condition*, London: Routledge.

Hack, G (2000) Infrastructure and Regional Form. In Simmonds and Hack eds, 183-192.

Hall, P. (1966) *The World Cities*, New York: MacGraw-Hill.

Hall, P. and Pfeiffer, U. (2000) *Urban Future 21 – A Global Agenda for Twenty-first Century Cities*, London and New York: E & FN Spon.

Harding, A., Dawson, J., Evans, R. and Parkinson, M. (1994) *European Cities towards 2000, profiles, policies and prospects*, Manchester: Manchester University Press.

Harvie, C. (1994) *The Rise of Regional Europe*, London: Routledge.

Herschel, T. and Newman, P. (2002) *Governance of Europe's City Regions, Planning policy and politics*, London: Routledge.

Hooghe, L. (1996) Reconciling EU-Wide Policy and National Diversity. In Hooghe ed, 1-24.

Hooghe, L. (2001) *The European Commission and the Integration of Europe*, Oxford: Cambridge University Press.

Hooghe, L. and Marks, G (2001) *Multi-Level Governance and European Integration*, Oxford: Rowman & Littlefield.

Hooghe, L. ed. (1996) *Cohesion Policy and European Integration, Building Multi-Level Governnace*, Oxford: Oxford University Press.

IMPU ed (1990) *Barcelona: la ciutat i la 92*, Barcelona: Ajuntament de Barcelona.

International Insitute for the Urban Envioronment, the ed (1998) *Indicators for Sustainable Urban Development*, Delft.

Jacobs, J. (1984) *Cities and the Wealth of Nations : Principles of Economic Life*, New York: Random House. 中村達也・谷口文子 訳 (1986) 『都市の経済学—発展と衰退のダイナミクス』TBS ブリタニカ

Jacobs, J. (1992/ 1st:1961) *The Death and the Life of Great American Cities*, New York: Random House. 黒川紀章 訳 (1977) 『アメリカ大都市の死と生』SD 選書

Jauhiainen, J.S. (2004) Urban networks between Tallinn and Helsinki – Talsinki or Hellinn?, *Maja* 01-02/2004. <http://www.solness.ee/majaeng/>

Jenks, M., Burton, E. and Williams, K. eds (1996) *The Compact City, A Sustainable Urban Form?*, London: E&FN Espon.

- Keating, M. (1993) The Continental Meso: Regions in the European Community. In Sharpe ed, 296-311.
- Keating, M. (1998) Is there Regional Level of Government in Europe?. In Le Gèles and Lequesne, 11-30.
- Kesteloot, C. (2002) Urban territorial policies and their effects at the neighbourhood level, *URBEX*, n21, 4RTD – TSER. <http://www2.fmg.uva.nl/urbex/>
- Kloosterman, R.C. and Lambregts, B. (2001) Clustering of Economic Activities in Polycentric Urban Regions – The Case of Randstad, *Urban Studies*, v38 n4, 717-732.
- Kreukels, A. (2003) Rotterdam and the south wing of the Randstad. In Salet et al eds, 189-201.
- Krier, L. (1984) Houses, Places, Cities, *AD Profile*, n54.
- Kunzmann, K. and Wegener, M. (1992) The Pattern of Urbanization in Western Europe, *Ekistics*, n58, 282-291.
- Laffan, B. and Shakleton, M. (2000) The Budget. In Wallace and Wallace eds, 211-242.
- Lafferty, W.M. (2001) *Local Agenda 21: The Pursuit of Sustainable Development in Sustainable Domains*. In Devuyst ed, 63-84.
- Lambregts, B. and Zonneveld, W. (2004) From Randstad to Deltametropolis: Changing Attitudes Towards the Scattered Metropolis, *European Planning Studies*, v12 n3, 299-321.
- Layard, A., Davoudi, S. and Batty, S. eds (2001) *Planning for a Sustainable Future*, London: Spon Press.
- Carmona, M. (2001) Sustainable Urban Design – A Possible Agenda. In Layard et al eds, 165-192.
- Le Galès, P. (2002) *European Cities, Social Conflicts and Governance*, Oxford: Oxford University Press.
- Le Galès, P. and Lequesne, C. eds (1998) *Regions in Europe*, London: Routledge.
- Linde-Laursen, A. (2000) Bordering Improvisation –Centuries of Indentity Politics. In Berg et al eds, 137-163.
- Low, N., Gleeson, B., Elander, I. and Lidskog, R. (2000) *Consuming Cities, The Urban Environment in the Global Economy after the Rio Declaration*, London: Routledge.
- Maragall i Mira, P. ed (1999) *Europa Pròxima -Europa, regiones y ciudades*, Barcelona: Edicions Universitat de Barcelona and Edicions UPC.
- Marshall, T. (2000) Urban Planning and Governance, Is there a Barcelona Model?, *International Planning Studies*, v5 n3, 299-313.
- Marshall, T. ed (2004) *Transforming Barcelona*, London: Routledge.
- Martí, P. (1998) Ciutat Vella 1900-2000: Un segle d'associacionisme, *Barcelona Societat* n9, 77-83.
- Mayer, M. (2000) *Social Movements in European Cities: transitions from the 1970s to the 1990s*. In Bagnasco and Le Galès eds, 131-152.
- McLeod, A. J. (1999) Regional Participation in EU Affairs: Lessons for Scotland from Austria, Germany and Spain, *Scotland Europa Papers* n15.
<http://www.scotlandeuropa.com/>
- McNeill, D. (1999) *Urban Change and the European Left –Tales from the New Barcelona*, London: Routledge.
- MIM.dk/ Ministry of the Environment and Energy, Denmark (1997) *National Planning Report for Denmark from Minister for Environment and Energy. Denmark and European Spatial Planning Policy*.
- MIM.dk/ Ministry of the Environment and Energy, Denmark (2000) *National Planning Report for Denmark. Local identity and new challenges*.
- MIM.dk/ Ministry of the Environment, Denmark (1992) *Denmark towards the Year 2018*.
- MIM.dk/ Ministry of the Environment, Denmark (1993) *The Øresund Region*.
- MIM.dk/ Ministry of the Environment, Denmark (1994) *Spatial Planning in Denmark*.

- Ministero dei Lavori Pubblici, Coordinamento Territoriale (2000) *Programa URBAN-Italia*, INU edizioni.
- Monclús, F.J. (2003) El “modelo Barcelona” ¿Una fórmula original? de la “Reconstrucción” a los proyectos urbanos estratégicos 1979-2004, *Perspectivas Urbanas* n3, 1-13.
- Monclús, F.J. ed (1996) *La ciudad dispersa -Suburbanización y nuevas periferias*, Barcelona: CCCB.
- Montaner, J.M. (1999) Los modelos Barcelona, In Ajuntament de Barcelona, 24-26.
- Morata, F. and Muñoz, X. (1996) Vying for European Funds: Territorial Restructuring in Spain. In Hooghe ed, 195-218.
- Morlicchio, E., Formisano, C., Vitiello, M., Gambardella, D. and Costagliola, R. (2002) The Development of Urban Policies in Naples. In Kesteloot ed, 69-77.
- Mozas, J. (1997) Collage’ metropolitano – Bilbao, imperativos económicos y regeneración urbana, *Arquitectura Viva*, 07-08/1997.
- Nel-lo, O. (2001) *Ciutat de ciutats, Reflexions sobre el procés d’urbanització a Catalunya*, Barcelona: Editorial Empúries.
- Newhouse, J. (1997) Europe’s Rising Regionalism, *Foreign Affairs* v76 n1, 67-84.
- Niessler, R. (2000) Results of Pilot Phase – Urban Audit. Presented at Urban Audit Day 09.2000.
- Okabe, A. (2002) Comparative Study of Randstad and Tokyo: Towards Spatial Sustainability of City-Regions, best paper in theme at *UPE5*, Oxford.
- País*, El 20/10/1998, El Guggenheim calcula en 24.043 millones la riqueza que ha generado.
- Parkinson, M. (2001) Key Challenges for Future Urban Policy, contribution to *Urban Futures Seminar in Södertäljese* <http://www.storstad.gov.se/urbanfutures/>
- Parmentier, C. (2001) Why Are Cities Important?, contribution to *Urban Futures Seminar in Södertäljese* <http://www.storstad.gov.se/urbanfutures/>
- Periódico, el*, supl 08/10/2003, El Raval –Un barrio lleno de vida y de dignidad.
- PROCIVESA (1998 ?) *Ciutat Vella Barcelona*, Barcelona.
- Pumain, D. and Saint-Julien, T. (1996) *Urban Networks in Europe, Réseaux urbains en Europe*, Montrouge: John Libbey Eurotext.
- Raventós, F. (2000) *La col-laboració publicoprivada*, Model Barcelona Quaderns de gestió n8, Barcelona: Aula Barcelona.
- REC/ Regional Environmental Center for Central and Eastern Europe (1994) *Manual on Public Participation in Environmental Decision Making – Current Practice and Future Possibilities in Central and Eastern Europe*, Budapest.
- REC/ Regional Environmental Center for Central and Eastern Europe (1996) *Beyond Boundaries – The International Dimension of Public Participation for the Countries of Central and Eastern*, Budapest.
- Red Herring* 12/02/2001, The Bilbao effect.
- Roberts, P. and Sykes, H. ed (2000) *Urban Regeneration – a Handbook*, London, Thousand Oaks and New Delhi: SAGE Publications Ltd.
- Rogers, R. and Power, A. (2000) *Cities for a small country*, London: Faber and Faber. 太田浩史・檜原徹・桑田仁・南泰裕 訳 (2004) 『都市 この小さな国の』鹿島出版会
- Rogers, R., Urban Task Force (1999) *Towards an Urban Renaissance –Final Report*, London: Spon.
- Rossi, A. (1971/1st:1966) *La arquitectura de la ciudad*, Barcelona: Gustavo Gili.

- Rovartz, J. (2000) *City-Region 2020, Integrated Planning for a Sustainable Environment*, London: Earthcan Publications Ltd.
- Sabragia, A. M. (2000) Environmental Policy. In Wallace and Wallace eds, 293-316.
- Salet, W. (2003) Amsterdam and the north wing of the Randstad. In Salet et al eds, 175-188.
- Salet, W. Thornley, A. and Kreukels, A. (2003) *Metropolitan Governance and Spatial Planning, Comparative Case Studies of European City-Regions*, London: Spon Press.
- Sassen, S. (2001, 1st:1991) *The Global City, New York, London, Tokyo, second edition*, Princeton: Princeton University Press.
- Scott, A. J. (2001) Globalization and the Rise of City-Regions, *European Planning Studies*, v9 n7, 813-826.
- Scott, A. J. ed (2001) *Global City-Regions - Trends, Theory, Policy*, Oxford: Oxford University Press. 坂本秀和訳 (2004) 『グローバル・シティ・リージョンズ』ダイヤモンド社
- Scott, A. J., Agnew, J., Soja, E.W. and Storøer, M. (2001) Global City-Regions, in A.J. Scott ed, 11-30.
- Sharpe, L.J. ed (1993) *The Rise of Meso Government in Europe*, London: SAGE.
- Simmonds, R. and Hack, G eds (2000) *Global City Regions, Their Emerging Forms*, London: Spon Press.
- Sitarz, D., President's Council on Sustainable Development (1998) *Sustainable America, America's Environment, Economy and Society in the 21st Century*, Carbondale: Earth Press.
- Soria y Puig, A. (1999) El siguiente paso. In CCCB ed: 180-197.
- Soria, A. and Tarragó, S. (1982) *Atlas de Barcelona*, Barcelona: COAC.
- Statistics Netherlands (2003) *Urban Audit II, The Implementation in the Netherlands*.
- Susser, I. (2001) *La sociologia urbana de Manuel Castells*, Madrid: Alianza Editorial.
- Sustainable Cities and Towns Campaign (1994) *Charter of European Cities & Towns Towards Sustainability*, Aalborg, May.
- Sustainable Cities and Towns Campaign (1996) *The Lisboa Action Plan: from Charter to Action*, Lisboa, October.
- Sustainable Cities and Towns Campaign (2000) *The Hannover Call of European Municipal Leaders at the Turn of the 21st Century*, Hannover, February.
- Sustainable Cities and Towns Campaign (2003) *First consultation report of local authorities on the communication from the commission "Towards a thematic strategy on the urban environment"*.
- Takeuchi, Y. (2000) The Tokyo Region. In Simmonds and Hack eds, 149-162.
- Tello, E. (2004) Changing course? Principles and tools for local sustainability. In Marshall ed, 225-250.
- Thurstain-Goodwin, M. and Batty, M. (2001) *The Sustainable Town Centre*. In Layard et al eds, 253-268.
- Tofarides, M. (2003) *Urban Policy in the European Union, A Multi-Level Gatekeeper System*, Hants: Ashgate.
- Tot Raval, Fundació (2003) *Diagnòstic i Accions de Foment Social i Econòmic pel Raval*, Barcelona.
- Tummers, L.J.M. and Schrijnen, P.M. (2000) The Randstad. In Simmonds and Hack eds, 66-79.
- Turok, I. et al (2004) Sources of city prosperity and cohesion: the case of Glasgow and Edinburgh. In Boddy and Parkinson ed, 13-31.
- URBACT Secretariat (2004) *Evaluation Mi-Précours du Programme URBACT – Rapport final*.
- Van den Berg, L., Braun, E. and van der Meer, J. eds (1998) *National Urban Policies in the European Union, Responses to urban issues in the fifteen member states*, Hants: Ashgate.
- Vasco, Gobierno (1994) *DOT: Directrices de Ordenación Territorial de la Comunidad Autónoma del País Vasco*, Vitoria.

Vasco, Gobierno (2000) *Actuaciones del Programa de Demolición de Ruinas Industriales en la Comunidad Autónoma de Euskadi*.

Veltz, P. (2000) European Cities in the World Economy. In Bagnasco and Le Galès eds, 33-47.

Veltz, P. (1999, French ed 1996) *Mondialización, ciudades y territorios*, Barcelona: Ariel.

Vonkeman, G.H. (2000) *Sustainable Development of European Cities and Regions*, Dordrecht: Kluwer Academic Publishers.

VROM.nl/ Ministry of Housing, Physical Planning and the Environment, The Netherlands (1991) *Urban Networks in Europe*.

VROM.nl/ Ministry of Housing, Physical Planning and the Environment, The Netherlands (1991) *Forth Report (EXTRA) on physical planning in the Netherlands - On the road to 2015*.

VROM.nl/ Ministry of Housing, Spatial Planning and the Environment, The Netherlands (2001a) *Fifth Report/Vijfde Nota over de Ruimtelijke Ordening*.

VROM.nl/ Ministry of Housing, Spatial Planning and the Environment, The Netherlands (2001b) *Summary, Making Space, Sharing Space, Fifth National Policy Document on Spatial Planning 2000/2020*.

VROM.nl/ Ministry of Housing, Spatial Planning and the Environment, The Netherlands (1998) *Netherlands 2030 - Discussion Document*.

VROM.nl/ Ministry of Housing, Spatial Planning and the Environment, The Netherlands (2000) *Compact Cities and Open Landscapes*.

VROM.nl/ Ministry of Housing, Spatial Planning and the Environment, The Netherlands (1999) *Planning the Netherlands - Strategic Principles for a New Spatial Planning Policy*.

Wallace, H. (2000) Analysing and Explaining Policies. In Wallace and Wallace eds, 65-81.

Wallace, H. (2000) The Institutional Setting, Five Variations on a Theme. In Wallace and Wallace eds, 3-37.

Wallace, H. and Wallace, W. eds (2000) *Policy-Making in the European Union*, Oxford: Oxford University Press.

Wallace, W. (2000) Collective Governace. In Wallace and Wallace eds, 523-542.

Ward, S.V. (2002) *Planning the Twentieth-Century City -the advanced capitalist world*, West Sussex: John Wiley & Sons.

WCED/ World Commission on Environment and Development (1987) *Our Common Future*. 環境と開発に関する世界委員会、大来佐武郎監修 (1991) 『地球の未来を守るために』 福武書店

Williams, K., Burton, E. and Jenks, M. eds (2000) *Achieving Sustainable Urban Form*, London and New York: E & FN Spon.

Williams, R.H. (1996) *European Union Spatial Policy and Planning*, London : Paul Chapman.

Zulaika, J. (1997) 'Potlatch' arquitectónico -Guggenheim Bilbao, el precio de un símbolo, *Arquitectura Viva* 07-08/1997.

JETRO コペンハーゲン事務所 (2003) 「バイオ・医薬分野の集積進むメディコンバレー」 『ユーロトレンド』 05/2003号

TN ブローブ 編 (2002) 『PROBE02: 計画からマネジメントへ』 TN ブローブ

ウェッセルズ, D. (1997) 「現代の統治」 納家・ウェッセルズ編 : 23-42 頁

カステル, M. (1997, 1983) 石川淳志・吉原直樹・橋本和孝 訳『都市とグラスルーツー都市社会運動の比較

文化理論』法政大学出版局

サックス, I. (1994) 都留重人 訳『健全な地球のために』サイマル出版

ハーヴェイ, D. (1999, 1990) 吉原直樹 訳『ポストモダニティの条件』青木書店

パーキンソン, M. (2001) 「都市のガバナンス、競争と連帯、ヨーロッパにおける事例」 国土交通省監修：83-104 頁

バットナム, R. D. (2001, 1993) 河田潤一 訳『哲学する民主主義—伝統の改革の市民的構造』NTT 出版

ベガラ, A. (2002) 「グローバル都市を目指して—スペイン・バスク州の都市地域多極システム」 TN プローブ編：372-401 頁

マッサー, I.・スヴィデン, O.・ヴェゲナー, M. (1994) 『21 世紀ヨーロッパ国土づくりへの選択』技法堂出版

メールピー, P. (2002) 「国境を越えた都市間協働—『エレスンドリージョン』と欧州レベルの空間戦略」 TN プローブ編：402-429 頁

メドウズ, D.H.・メドウズ, D.L.・ランダーズ, J.・ベアランズ 3 世, W.W. (1972) 大来佐武郎 監訳『成長の限界—ローマ・クラブ「人類の危機」レポート』ダイヤモンド社

ラスムッセン, E. (1993, 1949) 横山正訳『都市と建築』東京大学出版会

ロジャース, R.・グムチジャン, P. (2002, 1997) 野城智也・和田淳・手塚貴晴訳『都市—この小さな惑星の』鹿島出版会

浅見政江 (2000) 『『地域』をめぐる政治』島野ほか編著：261-277 頁

石川幹子 (2001) 『都市と緑地』岩波書店

伊藤滋・小林重敬・大西隆 監修 (財)民間都市開発推進機構都市研究センター編 (2004) 『欧米のまちづくり・都市計画制度、サステイナブル・シティへの途』ぎょうせい

稲本守 (2003) 「欧州連合 (EU) の『地域政策』と『マルチレベル・ガバナンス』」 『東京水産大学論集』38 号別冊 23-42 頁

植田和弘 (2001) 「サステイナブルな地域づくりと地域環境政策」 『地域政策—あすの三重』(社会経済研究センター) 1 号 4-10 頁

宇沢弘文『社会的共通資本』岩波新書

宇沢弘文・薄井充裕・前田正尚 編著 (2003) 『都市のルネッサンスを求めて、社会的共通資本としての都市 1』東京大学出版会

白井陽一郎 (1998) 「EU 環境政策の新展開とローカル環境イニシアティブ」『経済社会学年報』XX 96-108 頁

大西健夫・岸上慎太郎 (1995) 『EU 政策と理念』早稲田大学出版部

岡部明子 (1999a) 「復活した都市の時代—EU のサステイナブル・シティ戦略」『造景』20 号 87-102 頁

岡部明子 (1999b) 「サステイナブル・ヨーロッパー国土計画から EU 空間計画へ」『造景』21 号 115-122 頁

岡部明子 (2000a) 「ラ・ボブラ・デ・リリエット—セメント工場廃墟が EU 支援で観光資源に」『造景』28 号 79-94 頁

岡部明子 (2000b) 「都市ネットワークの欧州—1 国の都市からヨーロッパの都市へ」(財)日本都市センター編：28-45 頁

岡部明子 (2000c) 『『アジア型コンパクトシティ』への提言』第 33 回建築文化懸賞論文下出賞 『建築文化』2 月号 114-118 頁

- 岡部明子 (2001a) 「EU、国境を越えるシティ・リージョンー都市をモーターに混迷を抜け出せるか」『世界』685号 157-163頁
- 岡部明子 (2001b) 「都市ネットワークの欧州ー国境を越える地域再編のダイナミズム」『造景』32号 137-156頁
- 岡部明子 (2001c) 「都市と田園を包含した地域クラスターへの再編ー欧州レベルの考察を通して」日本建築学会編：75-78頁
- 岡部明子 (2002a) 「欧州成熟都市の再生手法、公共空間を社会資本ととらえる発想から」日本建築学会設計方法委員会編：79-88頁
- 岡部明子 (2002b) 「何が2国にまたがる生活圏を生んだのかーデンマーク、スウェーデン間の複数都市連携に探る」『地域開発』v451 3-8頁
- 岡部明子 (2002c) 「マネジメントへの岐路、個が先か関係が先か」TNプローブ編：520-523頁
- 岡部明子 (2003a) 「公共空間を人の手に取り戻すー欧州都市再生の原点」宇沢ほか編著：11-38頁
- 岡部明子 (2003b) 『サステイナブルシティ、EUの地域・環境戦略』学芸出版社
- 岡部明子 (2003c) 「都市再生のバルセロナ・モデルー計画と市場の狭間で問う都市再開発の手法」『日経地域情報』409号 35-39頁
- 岡部明子 (2003d) 「日欧の常識にみる〈都市づくり〉の違いーマンション開発を利用して公園を整備する」『社会運動』（市民セクター政策機構）274号 48-54頁
- 岡部明子 (2003e) 「ビルバオ都市再生への挑戦ーグッゲンハイム効果はどこまで本物か」『地域政策 あすの三重』（三重県政策開発研修センター）8号 26-31頁
- 岡部明子 (2004a) 「スペイン」伊藤ほか監修：235-265頁
- 岡部明子 (2004b) 「バルセロナ市民運動史と旧市街」(財)国土技術研究センター編：89-115頁
- 岡部明子 (2004c) 「都市再生から地域再生へ、求められるグローバルの視点」『日経グローバル』n2, 43-47頁
- 岡部明子・吉良森子 (2002) 「成熟都市の戦略.誰が何をマネジメントするか」TNプローブ編：10-17頁
- 岡村堯 (2004) 『ヨーロッパ環境法』三省堂
- 小川有美 監修 (1999) 『EU諸国』自由国民社
- 海道清信 (2001) 『コンパクトシティー持続可能な社会の都市像を求めて』学芸出版社
- 梶田孝道 (1993) 『統合と分裂のヨーロッパ』岩波新書
- 片山健介 (2002) 「欧州連合(EU)の国土・地域戦略」『都市計画』n237, 37-40頁
- 国土技術研究センター(財)編 (2004) 『地方中核都市における歴史的都心の再生に関する研究ー旧市街再生の成功事例としての「バルセロナモデル」の調査研究を通じて』
- 国土交通省 都市・地域整備局まちづくり推進課 監修 (2001) 『再生！日本の都市ーOECD対日都市政策勧告』ぎょうせい
- 斎藤純『公共性』岩波書店
- 佐川泰弘 (2000) 「EUとリージョンーヨーロッパの公共政策過程におけるリージョンのアクター化」『茨城大学政経学会雑誌』n69 23-37頁
- 佐々木雅幸 (1997) 『創造都市の経済学』勁草書房
- 佐々木宏 (1995) 『EUの地理学』二宮書店
- 佐無田光 (2001) 「欧州サステイナブル・シティの展開」『環境と公害』v13n1, 36-43頁
- 志摩園子 (2001) 「ヨーロッパ統合とバルト3国」宮島・羽場編

- 島野卓爾・岡村堯・田中俊郎編著 (2000) 『EU入門—誕生から、政治・法律・経済まで』有斐閣
- 庄司克宏 (2003) 『EU法—基礎編・政策篇』岩波書店
- 神野直彦 (2002) 『人間回復の経済学』岩波新書
- 鈴木昭一 (1988) 「スペインの地域と国家—1978年憲法をめぐる論議」宮島ほか編：69-93頁
- 瀬田史彦・片山健介 (2001) 「欧州における『地域』の位置づけと広域計画の役割」『地域開発』v443 45-49頁
- 園部雅久 (2003) 「現代都市の分極化と21世紀への課題」『都市問題』v94 n6, 27-42頁
- 武内和彦 (1998) 「巨大都市の成長と地球環境」武内・林編：1-27頁
- 武内和彦・住明正・植田和弘 (2002) 『環境学序説、環境学入門1』岩波書店
- 武内和彦・林良嗣編 (1998) 『地球環境学8：地球環境と巨大都市』岩波書店
- 棚池康信 (2000) 「市場統合と地域政策」島野ほか編著：189-193頁
- 田中明彦 (1996) 『新しい「中世」21世紀の世界システム』日本経済新聞社
- 辻悟一 (2003) 『EUの地域政策』世界思想社
- 坪郷實 編 (2003) 『新しい公共空間をつくる—市民活動の営みから』日本評論社
- 納家政嗣 (1997) 「国際関係の中の日本、日本の中の国際関係」納家・ウェッセルズ編：3-22頁
- 納家政嗣・ウェッセルズ, D. 編 (1997) 『ガバナンスと日本、共治の模索』勁草書房
- 日本建築学会 編 (2001) 『2001年度日本建築学会大会 都市計画・農村計画部門研究懇談会「都市と田園のランドデザイン—21世紀都市・田園論」資料』
- 日本建築学会設計方法法委員会 編 (2002) 『第5回設計方法シンポジウム「人間-環境系のデザインプロセス」資料』
- 日本都市センター(財) 編 (2000) 『ヨーロッパの都市政策に学ぶ』日本都市センターブックレット n4
- 日本比較政治学会編 (2003) 『「EUのなかの国民国家—デモクラシーの変容」日本比較政治学会年報』早稲田大学出版部
- 野村博美 (2001) 「EUにおける国境を越えた地域計画の手法—中南東欧地域における INTERREG II C の事例」『都市計画』n36, 799-804頁
- 羽場久み子 (1994) 『統合ヨーロッパの民族問題』講談社現代新書
- 平島健司 (2004) 『EUは国家を超えられるか—政治統合のゆくえ』岩波書店
- 広井良典 (2001) 『定常型社会—新しい「豊かさ」の構想』岩波新書
- 福島茂 (2002) 「欧州連合における地域政策と地域空間計画の展開」『人と国土21』v27 n6, 37-41頁
- 藤井良広 (1971, 新版 2002) 『EUの知識』日経文庫
- 増田四郎 (1968) 『都市』筑摩書房
- 松下和夫 (2000) 『環境政治入門』平凡社新書
- 松原宏 編 (2003) 『先進国経済の地域構造』東京大学出版会
- 松本忠 (2004) 「北欧」伊藤ほか監修 (財)民間都市開発推進機構都市研究センター編：295-325頁
- 宮崎徹 (2002) 「ボランティア経済と公共空間」『国民経済』n165
- 宮島喬 (1992) 『ひとつのヨーロッパいくつものヨーロッパ—周辺の見点から』東京大学出版会
- 宮島喬 (1997) 『ヨーロッパ社会の試練—統合のなかの民族・地域問題』東京大学出版会
- 宮島喬・羽場久み子 (2001) 『ヨーロッパ統合のゆくえ—民族・地域・国家』人文書院
- 宮島喬・梶田孝道 (1988) 「地域問題の展開と国民国家—ヨーロッパ社会の変容への視角」宮島ほか編：3-22頁

- 宮島喬・梶田孝道編 (1988)『現代ヨーロッパの地域と国家—変容する〈中心—周辺〉問題への視角』有信堂
- 宮本憲一 (2000)『日本社会の持続性』岩波書店
- 宮脇勝 (2004)「イタリア」伊藤ほか監修 : 201-234 頁
- 百瀬宏・志摩園子・大島美穂 (1995)『環バルト海—地域協力のゆくえ』岩波新書
- 諸富徹 (2003)『環境』岩波書店
- 矢作弘・岡部明子 (1999)「21 世紀 EU の都市戦略—市場主義に対抗する地域主義とサステナビリティ」『世界』658 号 153-160 頁
- 山本健兒 (2004)「ユーロシティーズと EU の都市政策」『経済志林』v71n4, 47-84 頁
- 吉見俊哉 (1996)『都市と都市化の社会学』岩波書店
- 笠真希 (2004)「オランダ」伊藤ほか監修 : 267-293 頁
- 若林広 (1988)「地域経済開発における EC・国家・地域」宮島ほか編 : 230-256 頁
- 渡部哲郎 (2004)『バスクとバスク人』平凡社新書
- 渡部亮 (1999)『改革の欧州に何を学か—日米欧三極の新時代』中公新書

※(訳書発行年, 原著発行年)

ヒアリング先リスト

※ヒアリングした相手の名前(実施年月) 役職名など, 実施場所:実施した都市名

Abella, M. アベリャ, M. (09/2003) director promoció i comunicació, Foment Ciutat Vella, FOCIVESA 事務所にて: Barcelona.

Acebillo, J.A. アセビーリョ, J.A. (09/2002) chief architect of the city, commissioner for infrastructures and urbanism, ajuntament de Barcelona, 市庁舎執務室にて: Barcelona.

Adriano, A. アドリアノ, A. (09/2003) architect, urban cosenza, comune di Cosenza, 市役所にて: Cosenza.

Areso, I. アレス, I. (12/2002) architect, ビルバオ市第1助役 primer teniente alcalde de Bilbao, Ajuntament de Bilbao, グローバル都市会議にて: Bilbao.

Auer アウエル (10/2000) secretariat, DG Regional Policy, European Commission, フランス出身. 欧州委地域政策局のオフィスにて: Brussels.

Borja, J. ボルジャ, J. (03/2001) consulting, urban strategy, 本人の事務所にて: Barcelona.

Campos Granados, J.A. カンポス グラナドス, J.A. (10/2000) ministro, departamento de economía, provincia de Biskaia, ビスカヤ県庁オフィスにて: Bilbao.

Casanova, J. カサノヴァ, J. (04/2000) alcalde, ajuntament de La Pobla de Lillet, 町役場にて: La Pobla de Lillet.

Clos, O. クロス, O. (03/2002) chief architect, 22@bcn, 在ポブレノウ地区 22@bcn オフィスにて: Barcelona.

Esteban, J. エステバン, J. (09/2002) director, gabinet d'Estudis Urbanistics, 市都市計画局オフィスにて: Barcelona.

Faaborg, R. ファーボルク, R. (10/2000) press coordinator, Ørestadsselskabet, エレシユタット開発工事現場にて: Copenhagen.

Fuldain Rodriguez, J.A. フルダイン ロドリゲス, J.A. (04/2000) engineer, director de area Barakaldo, Bilbao Ria 2000, ビルバオ・リア 2000 再生公社オフィスにて: Bilbao.

Gonzalez Tormo, R. ゴンサレス トルモ, R. (03/2002) director, 22@bcn, 在ポブレノウ地区 22@bcn オフィスにて: Barcelona.

Izeta, J.I. イセタ, J.I. (10/2000) director de ordenación del territorio, Gobierno Vasco, バスク州庁舎 LACUA にて: Vitoria.

Joan i Lluís, S. ジョアン イ リュイス, S. (09/2002) subdirector general d'actuació, direcció general d'urbanisme, departament de política territorial i obres públiques, generalitat de catalunya, 州分庁舎公共事業省都市計画局オフィスにて: Barcelona.

Karu, T. カル, T. (09/2004) EU project manager, city of tallinn, 市役所内オフィスにて: Tallinn.

Keinnanen, O. ケイナネン, O. (09/2004) adviser, baltic cooperation, city of helsinki, 市役所内面接室にて: Helsinki.

Kleeschulte, S. クレシュルト, S. (03/2004) ETC/TE manager, European Topic Centre Terrestrial Environment, ドイツ出身, バルセロナ自治大学内オフィスにて: Barcelona.

Lecocq, M.C. ルコ, M.C. (02/2002) Euromediterranéé, ユーロ地中海情報センターにて: Marseille.

Lumbierres, M. ルンビエレス, M. (09/2003) director gerent, fundació tot Raval, 兼務するロメア財団のオフィスにて: Barcelona.

Martinez Cearra, A. マルティネス セアラ, A. (06/1999) director general, Bilbao Metropoli-30, 電話インタビューの後、メトロポリ 30 オフィスにて: Bilbao.

Mehlbye, P. メールビー, P. (10/2000) consulting, Integrated strategies for development of regions and territories, ex-member of Regional Policy DG, ブリュッセル空港にて: Brussels.

Mierop, C. ミエロップ, C. (03/2001) member of cabinet Ms. V. Reding, ベルギー出身. バスク国際会議にて: San Sebastián.

Motte, A. モッテ, A. (02/2002) director, institut d'Aménagement Regional, 地域開発研究所にて: Aix en Provence.

Mozas, J. モサス, J. (10/2000) chief editor, 建築雑誌, オフィスにて: Vitoria.

Niessler, R. ニースラー, R. (10/2000) head of URBAN, DG Regional Policy, European Commission, オーストリア出身. 欧州委地域政策総局のオフィスにて: Brussels.

Ocio Endaya, M. オシオ エンダヤ, M. (04/2000) architect, director del arera de Obras y Servicios, Ayuntamiento de Bilbao, 市役所にて: Bilbao.

Pujals, E. プジャルス, E. (04/2000) electrodomestics, 乗り物博物館・職業訓練所にて: La Pobla de Lillet.

Pulli, G. ジャコモ, G. (03/2002) comune di Napoli, 在スパニョーリ地区 URBAN オフィスにて: Napoli.

Raagmaa, G. ラグマー, G. (09/2004) professor, consultant, パルヌ大学研究室にて: Parnu.

Riaño, J. リアニョ, J. (04/2000) artist, director, Bilbao-arte, ビルバオアートセンターにて: Bilbao.

Solé, C. ソレー, C. (09/2003) director, direcció general d'arquitectura i habitatge, departament política territorial i obres públiques, generalitat de catalunya, 州分庁舎公共事業省建築住宅局オフィスにて: Barcelona.

Terk, E. テルク, E. (09/2004) director, estonian institute of future studies, 研究所オフィスにて: Tallinn.

Vegara, A. ベガラ, A. (03/2001) director, Fundacion Metropoli, メトロポリ財団オフィスにて: Madrid.

van de Ven, A. ファンデフェン, A. (10/2000) Environment committee, Eurocities, オランダ出身, ユーロシティオフィスにて: Brussels.

参照した主なウェブサイト

2004 文化フォーラム www.barcelona2004.org/ www.forumbcn2004.org/
CoR/ Committee of Regions <http://www.cor.eu.int/>
Deutsch-Österreichisches URBAN-Netzwerk
Dutch UEC www.dutchuec.nl
ESPOON <http://www.espon.lu/>
ESPRID <http://www.esprid.org/>
Eu-polis <http://www.eu-polis.polito.it>
Eurocities <http://www.eurocities.org/>
ICLEI/ Local Governments for Sustainability <http://www.iclei.org/>
IRE <http://www.innovating-regions.org>
Local Sustainability <http://www3.iclei.org/egpis>
欧州委地域政策総局 Regional Policy – Inforegio http://europa.eu.int/comm/regional_policy
SURBAN <http://www.eaue.de/winuwd>
Sustainable Cities and Towns Campaign <http://www.sustainable-cities.org/>
URBACT <http://www.urbact.org>
URBAN France <http://www.urban-france.org>
URBAN Italia <http://www.urbanitalia.net>
Urban Audit http://europa.eu.int/comm/regional_policy/urban2/urban/audit
Urban future se2001 <http://www.storstad.gov.se/urbanfutures/>
<http://www.deutscher-verband.org/seiten/urban-netzwerk>
グッゲンハイム美術館 <http://www.guggenheim-bilbao.es>
バスク州 <http://www.euskadi.net/>
バルセロナ市 www.bcn.es/
バルセロナ町会連合会 <http://www.lafavb.com/>
ビスカヤ県ビルバオ都市圏 <http://www.bilbao-city.net/>
ビルバオ・メトロポリ 30 <http://www.bm30.es/>
ビルバオ市 <http://www.bilbao.net/>
ビルバオ地下鉄 <http://www.metrobilbao.com>
ビルバオ入江 2000 公社 <http://www.bilbaoria2000.com>
欧州委環境総局 都市環境 http://europa.eu.int/comm/environment/urban/home_en.htm